

鳥取市教育委員会事務の
自己点検・評価報告書
(令和6年度事業分)

令和8年2月

鳥取市教育委員会

4	生涯にわたり、心豊かに学び育つことができる環境の充実		
(1)	生涯学習推進事業	〔生涯学習・スポーツ課〕	31～32
(2)	生涯学習講座推進事業		
	麒麟のまちアカデミー開設	〔生涯学習・スポーツ課〕	33～34
(3)	人権教育推進事業	〔学校教育課〕	35～36
5	持続可能な地域づくりを支える社会教育の推進		
(1)	地域学校協働活動推進事業		
		〔生涯学習・スポーツ課〕	37～38
6	歴史と文化が息づくふるさとの創生		
(1)	鳥取城跡保存修理事業	〔文化財課〕	39～40
(2)	埋蔵文化財調査費	〔文化財課〕	41～42
(3)	旧美敷水源地水道施設管理活用事業	〔文化財課〕	43～44
7	親しみのある読書環境づくりの推進		
(1)	電子図書館管理運営	〔中央図書館〕	45～46
(2)	地域社会教育活動総合事業	〔中央図書館〕	47～48
8	子どもの健全な食生活と学校保健の推進		
(1)	学校給食運営事業	〔学校保健給食課〕	49～50
(2)	備品整備（学校給食センター）	〔学校保健給食課〕	51～52
9	すべての市民がいつでも親しむことのできるスポーツ活動の振興		
(1)	子どものこころづくり支援「夢の教室」事業		
		〔生涯学習・スポーツ課〕	53～54
(2)	鳥取マラソン開催	〔生涯学習・スポーツ課〕	55～56
(3)	市民総スポーツ運動	〔生涯学習・スポーツ課〕	57～58
(4)	市民体育館等再整備事業	〔生涯学習・スポーツ課〕	59～60
V	学識経験者の意見（総評）		61～62

I はじめに

1 制度の目的

鳥取市教育委員会は、市民一人ひとりが、社会の変化や課題に対応しながら夢や希望に向かって力強く歩んでいけるよう、ふるさとへの思いや志をもち、たくましく活躍できる人づくりを基本理念とし、教育の充実を図り、質を高める「知を開く」、郷土を愛し豊かな心を育む「徳を啓く」、未来を創造する健やかな体を育む「体を拓く」、という3つの「ひらく」を推進しております。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務づけられています。

鳥取市教育委員会は、この法の趣旨に則し、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、令和6年度の事務事業について「教育委員会事務の自己点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。点検・評価に当たっては、学識経験を有する者によるヒアリングを受け、主要な事業の評価及び全体的な総合評価をいただきました。

《参考》 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

本市では、「第11次鳥取市総合計画」や各種計画との整合性を図りながら今後5年間の教育施策の基本方針を示す「第2期鳥取市の教育等の振興に関する大綱」を定め、より具体的な方向性を示す「第2期鳥取市教育振興基本計画」を策定しました。令和7年度（令和6年度事業対象）の点検・評価の実施にあたっては、基本計画の具体的な取組の中から鳥取市教育委員会が重点的に取り組んでいる事業として、24事業を抽出し、点検・評価を実施しました。

3 点検・評価の方法

事業ごとの自己点検・評価シートに、教育委員会の自己評価を記入したうえで、学識経験者の所見をいただきました。

さらに、学識経験者からは点検・評価結果全体に対する総合評価をいただきました。

【点検・評価シートの構成】

- ① 基本情報
(総合計画の位置付け)
- ② 事業目的
(対象、意図、手段)
- ③ 事業の年度別計画・実績
- ④ 令和6年度の事務事業実施概要
- ⑤ 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標
- ⑥ 活動指標の達成率
- ⑦ 評価
- ⑧ 事業の成果を踏まえた今後の方向性
- ⑨ 学識経験者の所見

【ご意見をいただいた学識経験者】

- 鳥取大学 農学部生命環境農学科 教授 松村一善 氏
- 公立鳥取環境大学 経営学部 教授 石川真澄 氏

自己点検・評価対象事業一覧 (R6年度実績)

〔第2期鳥取市の教育等の振興に関する大綱 施策体系・事務事業一覧〕

※ [] は点検・評価対象事業

基本方針	政策	推進施策	事業名	担当部署	
I 教育の充実を図りその質を高めます！ 【知を開く】	(1) 社会を生きぬく力を育む教育の推進	1 小中一貫教育を推進し、学校・家庭・地域が連携、協働しながら、児童生徒の将来に対する夢・希望や志をひらき、次代を担う人材を育成します。	1 自立と創造の学校・学園づくり推進事業費	学校教育課	
		2 グローバル化や情報化等に対応した授業改善を進め、児童生徒一人ひとりの主体的・対話的で深い学びの実現をめざします。	2 魅力と徹底の学力向上推進事業費	学校教育課	
			3 G I G Aスクール構想事業費	総合教育センター	
			4 語学指導等外国青年招致事業費	学校教育課	
			5 小学校外国語活動人材支援事業費	学校教育課	
		3 人との豊かなかかわりにより児童生徒の自己有用感を高めるとともに自治力のある集団づくりを推進します。	6 子どもたちの心と自治力育成事業費	学校教育課	
	(2) すべての子どもの学びの保障の充実	1 すべての児童生徒が自らの能力や可能性を最大限に伸ばすため、教育の機会を確保し、一人ひとりの実情やニーズに応じた教育の充実を図ります。	7 教職員研修運営事業費	学校教育課	
			8 児童生徒支援事業費	総合教育センター	
		2 不登校やその傾向にある児童生徒の教育を保障し、適切な支援を行います。	3 配慮や支援を必要とする児童生徒の教育を保障し、福祉等と連携しながら社会的自立につながる適切な支援を行います。	9 特別支援教育推進事業費	学校教育課
				10 外国人等児童生徒編入学支援事業費	学校教育課
				11 遠距離通学費補助金 (小学校)	学校保健給食課
				12 遠距離通学費補助金 (中学校)	学校保健給食課
				13 要保護・準要保護児童就学援助費 (小学校)	学校保健給食課
				14 要保護・準要保護児童就学援助費 (中学校)	学校保健給食課
				15 準要保護児童・生徒給食扶助費 (小学校)	学校保健給食課
				16 準要保護児童・生徒給食扶助費 (中学校)	学校保健給食課
	3 子どもが生き生きと学び活動できる環境を整えるため、老朽化した施設の改修や、トイレの洋式化などの学校施設の充実を図ります。	17 特別支援学級教育就学奨励費 (小学校)	学校保健給食課		
		18 特別支援学級教育就学奨励費 (中学校)	学校保健給食課		
		1 1. 子どもが生き生きと学び活動できる環境を整えるため、老朽化した施設の改修や、トイレの洋式化などの学校施設の充実を図ります。	19 学校維持補修費 (小学校・大規模)	教育総務課	
			20 大規模改築事業費 (小学校)	教育総務課	
		2 2. 学校と地域が一体となり、地域の実情に応じた活力ある学校づくりをめざすため、学校のあり方を検討する組織づくりを支援します。	21 小学校増改築事業費	教育総務課	
			22 学校維持補修費 (中学校・大規模)	教育総務課	
	(3) 充実した教育環境の推進	3 3. ICTの活用や学校サポート体制の構築を図り、学校業務の効率化や共同化など学校業務の改善によって教職員の多忙化を解消します。	23 中学校増改築事業費	教育総務課	
			24 鳥取市立学校校区再編推進事業費	教育総務課	
		4 4. 教職員の健康保持と教育活動の充実を図るため、労働安全衛生管理体制の整備を図ります。	25 学校働き方改革推進事業費	学校教育課	
			26 学校医報酬等	学校保健給食課	
		5 5. 事故や災害、感染症等に対して、児童生徒が正しい知識をもち自らの命を守ることができるよう、実践的な学習を通して危機管理意識を高める教育を推進します。	27 衛生管理費	学校保健給食課	
			28 学校安全推進事業費	学校教育課	
		6 6. 交通安全・防犯・災害時対応等の視点から、関係機関との連携のもと、通学路の安全確保を推進します。	29 事務局運営費 (学校保健給食課)	学校保健給食課	
			7 7. 放課後児童クラブや放課後子ども教室を設置し、放課後の児童の安全・安心な場所を確保するとともに、家庭や地域等と連携し児童の健全な育成を図ります。	30 放課後児童対策事業費	学校教育課
		31 放課後子ども教室推進事業費		学校教育課	

自己点検・評価対象事業一覧（R6年度実績）

〔第2期鳥取市の教育等の振興に関する大綱 施策体系・事務事業一覧〕

※ [] は点検・評価対象事業

基本方針	政策	推進施策	事業名	担当部署	
II 郷土を愛し、豊かな心を育む学びの環境を築きます！ 【徳を啓く】	(1) 生涯にわたり心豊かに学び育つことができる環境の充実	1 市民が自覚的に、自由に学ぶことのできる多様な学習機会や情報の提供の充実を図ることで、生涯学習社会の実現をめざします。	32 生涯学習推進事業費	生涯学習・スポーツ課	
			33 生涯学習講座推進事業費 麒麟のまちアカデミー開設費	生涯学習・スポーツ課	
		2 市民が学んだ成果を、地域でいかしながら自己実現を図り、生きがいに満ちた暮らしの実現を支援します。	34 地区公民館事業費	生涯学習・スポーツ課	
		3 さまざまな学びや体験を通して、自分を取り巻く人々への感謝や敬愛・命の大切さや善悪の判断など豊かな心を育むとともに、人を大切にする人権教育の充実を図ります。	35 人権教育推進事業費	総合教育センター	
			36 児童生徒交流体験事業費	学校教育課	
		(2) 持続可能な地域づくりを支える社会教育の推進	1 地区公民館等の社会教育施設の活用により地域の教育力を高め、学びの成果をいかした住民主体の地域づくりの推進を後押しします。	37 文化センター施設整備費	生涯学習・スポーツ課
				38 ものづくり道場推進事業費	生涯学習・スポーツ課
			2 未来を創り出す子どもたちの成長のために、学校のみならず、地域住民や保護者等も含め、市民一人ひとりが教育の当事者となり、社会総がかりでの教育の実現を図ります。	39 青年団体育成費補助金	生涯学習・スポーツ課
				40 PTA育成費	生涯学習・スポーツ課
			41 子育てネットワーク推進事業費	生涯学習・スポーツ課	
			42 青少年団体育成費補助金	生涯学習・スポーツ課	
			43 地域学校協働活動推進事業費	生涯学習・スポーツ課	
	3 本市のもつ豊かな自然、産業、歴史、芸術、文化財等の地域資源を学びの中で活用し、ふるさとへの良さに気づき、ふるさとを愛する心を育みます。		44 児童生徒交流体験事業費	学校教育課	
			45 さじアストロパーク企画イベント等事業費	さじアストロパーク	
			46 さじアストロパーク運営管理費	さじアストロパーク	
	(3) 歴史と文化が息づくふるさとの創生	1 文化芸術の振興や文化財への愛護精神の醸成を図り、文化財の保存と活用を進め、次世代への継承に努めます。	47 史跡鳥取藩主池田家墓所管理補助金	文化財課	
			48 文化財調査費	文化財課	
			49 鳥取城跡保存修理事業	文化財課	
		2 伝統文化や歴史遺産に刻まれた先人たちの足跡に触れることで、地域への理解と絆を深め、郷土を愛する豊かな人間性を持った人材を育成します。	50 歴史文化基本構想策定事業費	文化財課	
			51 埋蔵文化財調査費	文化財課	
		3 情報発信を促進し、観光客など多くの人が来訪する、歴史と文化の薫りに満ちた活力あるまちづくりを推進します。	52 上寺地遺跡管理事業費	文化財課	
			53 旧美敷水源地水道施設管理活用事業費	文化財課	
			54 歴史博物館管理費	文化財課	
			55 仁風閣・宝扇庵管理	文化財課	
			56 因幡万葉歴史館管理費	文化財課	
	(4) 親しみのある読書環境づくりの推進	1 年齢や障がいの有無などにかかわらず、すべての市民が読書を通して、豊かな心や夢を育み、人づくりや地域づくりを推進します。	58 図書購入費	中央図書館	
		59 電子図書館管理運営費	中央図書館		
2 図書館を通してさまざまな出会いの場をつくり、市民が集い、にぎわい、つながりある交流を促進し、さらなる地域文化の創造を支援します。		60 一般管理費（市民図書館）	中央図書館		
		61 図書館情報管理システム処理費	中央図書館		
3 学校・家庭・地域と図書館との連携を図りながら、子どもたちの読書活動を推進し、家庭・地域の教育力の向上を図ります。		62 地域社会教育活動総合事業費	中央図書館		

自己点検・評価対象事業一覧（R6年度実績）

〔第2期鳥取市の教育等の振興に関する大綱 施策体系・事務事業一覧〕

※ は点検・評価対象事業

基本方針	政策	推進施策	事業名	担当部署	
III 未来を創造する健やかな体を育みます！ 【体を拓く】	(1) 子どもの健全な食生活と学校保健の推進	1 児童生徒の心身の成長や健康の保持増進を図るため、学校給食の栄養バランスを工夫するとともに、地場産物の活用や望ましい食習慣を養う取組など食育の推進を図ります。	63 給食配送委託費	学校保健給食課	
			64 給食調理委託費	学校保健給食課	
			65 学校給食未納対策費	学校保健給食課	
			66 学校給食運営事業費	学校保健給食課	
			67 備品整備（学校給食センター）	学校保健給食課	
			68 学校給食食物アレルギー対策事業費	学校保健給食課	
		2 学校給食センターの再整備、設備の充実に取り組むとともに、食物アレルギー対応等の対策を強化し、安全で安心な学校給食を提供します。	69 学校給食食物アレルギー対策事業費（研修費）	学校保健給食課	
			3 児童生徒の心身の健全な発達を図るため、教科や特別活動など、教育活動全体を通して学ぶ保健教育と、環境衛生の維持、健康診断の実施など、学校における保健管理を推進し、生きる力を育みます。	70 学校医報酬等	学校保健給食課
				71 衛生管理費	学校保健給食課
	(2) すべての市民がいつでも親しむことのできるスポーツ活動の振興	1 乳幼児期から高齢者まで運動やスポーツに親しむ機会の充実に取り組み、体力向上と健康寿命の延伸を図りながら、生涯にわたり豊かな心と健やかな体を育みます。	72 子どものこころづくり支援「夢の教室」事業費	生涯学習・スポーツ課	
			73 市民体育祭開催費	生涯学習・スポーツ課	
			74 子どもの身体・健康づくり推進事業費	生涯学習・スポーツ課	
		2 年齢や性別、障がい等に関わらず、すべての市民がいつでもスポーツに親しめる多様なスポーツ活動を推進し、市民がいつでも誰もがスポーツに取り組むため各地域や各種団体等のスポーツ推進人材の育成を進めます。	75 麒麟のまち交流スポーツ大会事業費	生涯学習・スポーツ課	
			76 地域運営型部活動推進モデル事業費	生涯学習・スポーツ課	
		3 2020年東京オリンピック・パラリンピックの経験を機にスポーツの大規模競技会や事前キャンプを積極的に誘致して、市内外の交流人口を増加させ、スポーツを通じた活力あるまちづくりを進めます。	77 ガイナーレ鳥取力向上事業費	生涯学習・スポーツ課	
			78 Jリーグ公式戦等運営費	生涯学習・スポーツ課	
			79 鳥取マラソン開催費	生涯学習・スポーツ課	
			80 スポレク祭開催費	生涯学習・スポーツ課	
		4 新たに整備する市民体育館やバードスタジアムを核とした、すべての市民がスポーツに参画できる安全で多様なスポーツ環境の確保を図ります。	81 市民総スポーツ運動費	生涯学習・スポーツ課	
			82 体育施設管理費	生涯学習・スポーツ課	
			83 屋外体育施設管理費	生涯学習・スポーツ課	
			84 市民体育館等再整備事業費	生涯学習・スポーツ課	
	85 地区体育館管理費		生涯学習・スポーツ課		
	86 屋外体育施設管理費		生涯学習・スポーツ課		
	87 小学生スポーツ全国大会出場補助金		生涯学習・スポーツ課		

Ⅱ 教育委員会の活動状況

1 教育委員選任状況（令和6年度）

職名	氏名	備考
教育長	河井 登志夫	R6.10.1～
教育長職務代理人	藤井 喜臣	R3.10.6～（3期目）
委員	前田 哲雄	R6.10.1～（2期目）
委員	谷口 なおこ	R4.10.9～
委員	中井 英子	R5.10.15～（2期目）

2 教育委員会会議の開催状況

定例教育委員会	12回（毎月1回）
臨時教育委員会	1回

3 教育委員会審議案件

(1) 教育委員会規則・訓令の制定及び改廃	……	3件
(2) 職員の人事に関する事	……	4件
(3) その他	……	3件
合計	……	10件

【教育委員会審議案件一覧】

議案番号	提出(審議)日	種別	件名	担当課
第17号	R6.6.24	人事	教職員の処分について	学校教育課
第18号	R6.7.30	規則	鳥取市教育委員会事務局組織規則の一部改正について	学校教育課
第19号	R6.7.30	その他	令和6年度に使用する小学校教科用図書の採択について	学校教育課
第20号	R6.9.25	その他	気高地域の新設統合小学校の学校予定地について	教育総務課 校区審議室
第21号	R6.12.24	人事	教職員の処分について	学校教育課
第1号	R7.1.27	規則	鳥取市教育委員会事務局等の職員の職名規則の一部改正について	生涯学習・スポーツ課
第2号	R7.1.27	規程	鳥取市さじアストロパークに勤務する職員の勤務時間等に関する規程の一部改正について	生涯学習・スポーツ課
第3号	R7.1.27	その他	鳥取市人権教育基本方針及び「一人一人の子どもが輝く 学校人権教育推進プラン」(第2次改訂)について	総合教育センター
第4号	R7.2.26	人事	教職員の処分について	学校教育課
第5号	R7.3.10	人事	令和6年度末教職員人事異動内示について	学校教育課

4 その他の活動状況

(1) 学校計画訪問

教育現場の実態や課題を把握するとともに、指導や助言を行い、適切な学校運営を支援するため、年次計画的に学校訪問を実施しており、令和6年度は7月から11月にかけて下記の学校を訪問し、授業（指導案、学習過程）及び学級経営等への指導をとおして、教職員の資質（授業力・教師力）の向上を図りました。

【令和6年度 学校計画訪問実施校】 計11校

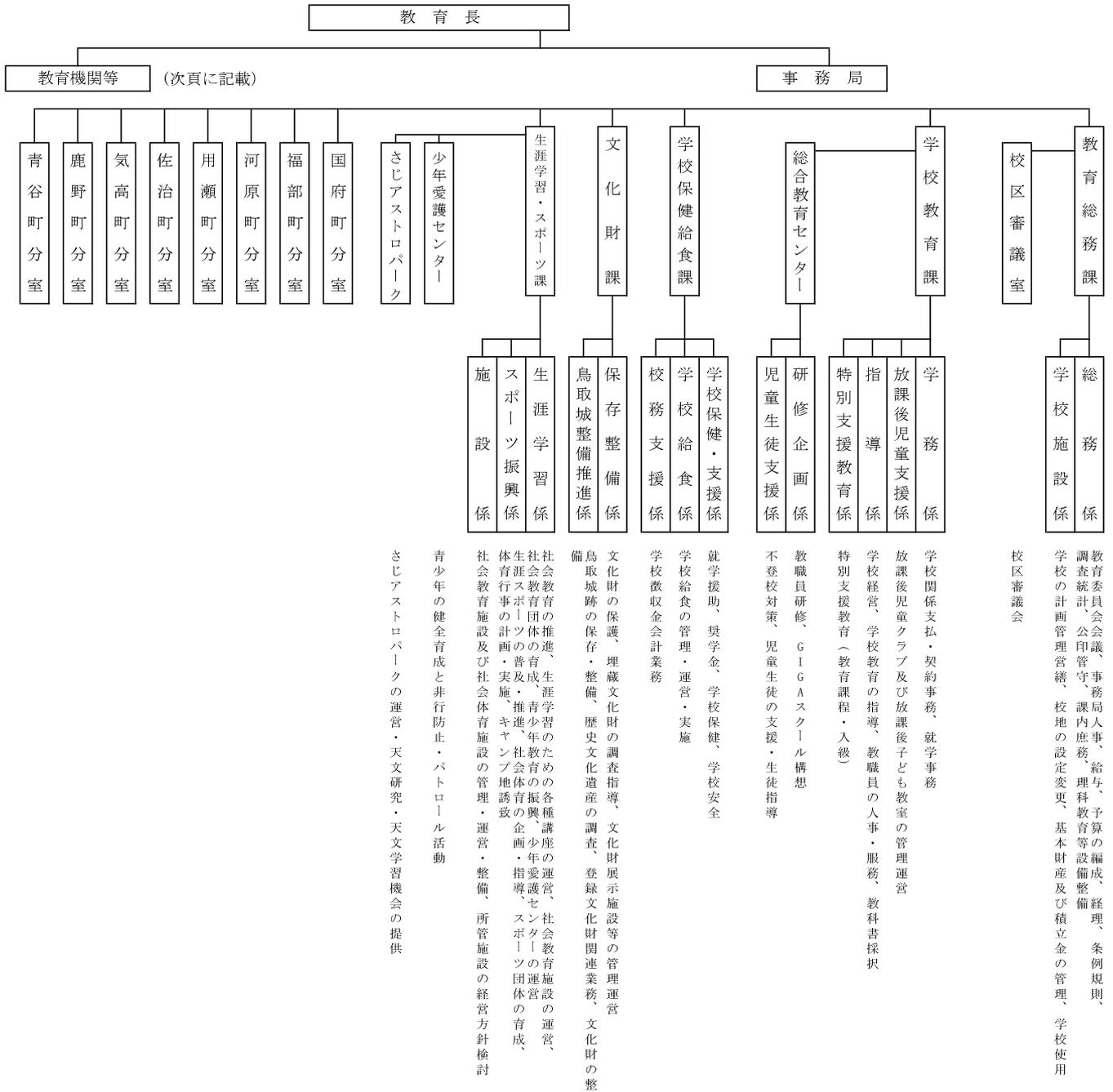
小学校 (7校)	修立小学校、稲葉山小学校、浜坂小学校、岩倉小学校、 中ノ郷小学校、宮ノ下小学校、国府東小学校
中学校 (3校)	東中学校、中ノ郷中学校、国府中学校
義務教育学校 (1校)	鹿野学園

(2) 協議会、研修会等への出席

時 期	内 容
7月10日	鳥取県市町村教育委員会研究協議会定期総会（倉吉市）
7月10日	鳥取県市町村教育委員会研究協議会研究大会（倉吉市） 研究発表 第1部会（教育行財政） 「伯耆町の教育行政」 第2部会（学校教育） 「北栄町教育の北栄らしさ -CSの取り組みを軸として-」 第3部会（社会教育・保健体育・文化） 「歴史文化基本構想について」
9月13日 (第3回)	市町村教育委員会協議会（大阪市） 内容... 初等中等教育施策の動向について、教育委員会の機能 強化・活性化について、
1月16日 (第5回)	市町村教育委員会協議会（オンライン） 内容... 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に ついて、いじめ対策について

(3) 総合教育会議

時 期	内 容
第 1 回 (12月24日)	防災教育について 文化施設のあり方について 次期鳥取市の教育等の振興に関する大綱、鳥取市教育振興基本計画の策定について



● 教育機関等施設所在地

番号	名称	番号	名称	番号	名称	番号	名称
〔市役所〕		〔市立中学校〕		青谷町農林漁業者トレーニングセンター		〔図書館〕	
1	鳥取市役所本庁舎	56	東中学校	166		210	鳥取市立中央図書館 (市役所駅南庁舎)
3	市役所駅南庁舎	57	東中学校のぞみ分校	〔主なスポーツ施設〕		211	用瀬図書館
4	国府町総合支所	58	西中学校	167	鳥取市幸町スケートボード場	212	気高図書館
5	福部町総合支所	59	南中学校	168	鳥取市B&G海洋センター		
6	河原町総合支所	60	北中学校	169	千代テニス場		
7	用瀬町総合支所	62	高草中学校	170	城北テニス場		
8	佐治町総合支所	63	湖東中学校	171	Axisバードスタジアム		
9	気高町総合支所	65	桜ヶ丘中学校	172	国府町農村勤労福祉センタープール		
10	鹿野町総合支所	66	中ノ郷中学校	173	国府町運動場		
11	青谷町総合支所	67	国府中学校	174	鳥取市若葉台スポーツセンター		
〔市立小学校〕		69	河原中学校	175	福部町ほっとスイミングプール		
12	久松小学校	70	千代南中学校	176	福部町グラウンド		
13	醇風小学校	72	気高中学校	177	福部町テニスコート		
14	遷喬小学校	74	青谷中学校	178	河原町総合運動場		
15	修立小学校	〔市立義務教育学校〕		180	佐治町B&G海洋センター		
16	日進小学校	32	湖南学園	181	佐治町多目的運動広場		
17	富桑小学校	68	福部未来学園	182	気高町B&G海洋センター		
18	稲葉山小学校	54	鹿野学園(流沙川学舎)	183	気高町運動広場		
19	城北小学校	73	鹿野学園(王舎城学舎)	184	気高町龍見台テニスコート		
20	美保小学校	26	江山学園	185	鹿野町B&G海洋センター		
21	賀露小学校	〔市立幼稚園〕		186	鹿野町運動広場		
22	明德小学校	75	福部未来学園幼稚園	187	青谷町グラウンド		
23	倉田小学校	76	河原あゆっこ園	188	青谷町グランドゴルフ場		
24	面影小学校	77	幼児センターこじか園	〔武道館〕			
27	大正小学校	〔総合教育センター〕		189	鳥取市武道館		
28	東郷小学校	78	総合教育センター	196	鳥取市弓道場		
29	明治小学校	〔主なコミュニティ施設〕		〔学校給食施設〕			
30	世紀小学校	80	国府町コミュニティセンター	191	第一学校給食センター		
31	湖山小学校	81	福部町コミュニティセンター	192	第二学校給食センター		
33	末恒小学校	82	河原町コミュニティセンター	193	湖東学校給食センター		
34	米里小学校	83	用瀬町民会館	194	国府学校給食センター		
35	津ノ井小学校	84	佐治町コミュニティセンター	195	河原学校給食センター		
36	浜坂小学校	85	気高町コミュニティセンター	197	気高学校給食センター		
37	岩倉小学校	87	青谷町コミュニティセンター	198	鹿野学校給食センター		
38	美保南小学校	〔生涯学習施設〕		199	青谷学校給食センター		
39	湖山西小学校	150	鳥取市文化センター	〔主な文化観光施設〕			
40	中ノ郷小学校	151	鳥取市こども科学館	200	仁風閣		
41	若葉台小学校	152	鳥取市福祉文化会館	201	鳥取世界おもちゃ館 (わらべ館)		
42	宮ノ下小学校	155	鳥取市視聴覚ライブラリー	202	鳥取市歴史博物館 (やまびこ館)		
43	国府東小学校	213	鳥取市生涯学習センター	203	因幡万葉歴史館		
45	河原第一小学校	〔主な体育施設〕		204	河原歴史民俗資料館		
46	西郷小学校	156	鳥取市民体育館エネトピアアリーナ	205	用瀬郷土歴史館		
47	散岐小学校		206	佐治天文台 (さじアストロパーク)			
48	用瀬小学校	158	河原町総合体育館	207	佐治歴史民俗資料館		
49	佐治小学校	159	河原町勤労者体育館	209	あおや郷土館		
50	宝木小学校	160	用瀬町勤労者体育センター				
51	瑞穂小学校	162	気高町勤労者体育センター				
52	浜村小学校	163	気高町農業者トレーニングセンター				
53	逢坂小学校	164	鹿野町農業者トレーニングセンター				
55	青谷小学校	165	青谷町体育館				

IV 自己点検・評価の結果

自己点検・評価シート

整理№	1	鳥取市教育振興基本計画		
事務事業名	自立と創造の学校・学園づくり推進事業費	所属名	学校教育課	

1. 基本情報

位基 教 育 本 づ 計 振 け 画 興	体系区分	コード	名称	
	基本方針	I 教育の充実を図りその質を高めます!【知を開く】		
	政策	(1) 社会を生きぬく力を育む教育の推進		
	推進施策	1. 小中一貫教育を推進し、学校・家庭・地域が連携、協働しながら、児童生徒の将来に対する夢・希望や志をひらき、次代を担う人材を育成します。		

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	全小・中・義務教育学校
意 図 (どのような状態 にするために)	鳥取市の小・中・義務教育学校が、児童生徒の実態、保護者の願いや期待、地域の特性などを踏まえて、自立して創意工夫のある学校づくりを進展させることにより、教育目標の達成を図る。
手 段 (どうするのか)	学校が企画した教育活動及び取組内容に応じて、創意や工夫・考え方を審査して予算配分する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	◎ 実施計画に基づく予算配分	◎ 実施計画に基づく予算配分	◎ 実施計画に基づく予算配分	◎ 実施計画に基づく予算配分	◎ 実施計画に基づく予算配分	
	年度別実績	◎ 実施計画に基づく予算配分 ・ 一律支援予算 ・ 特別支援予算 ・ 人材活用支援予算					
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	24,338	24,280	25,501	25,269	0	
	直接経費 A	22,911	22,834	24,086	23,826	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他	22,911	22,834	23,486	23,826	
一般財源							
人件費 B	1,427	1,446	1,415	1,443			
職員数の内 訳	正規職員	0.20	0.20	0.20	0.20		
	会計年度任用職員						

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>現在、地域とともにある特色ある学校づくりを実現するため、各学校の教育理念や教育方針に基づき、目標達成型の自主的・自律的な学校経営を行うことが求められている。</p> <p>この事業は、そのような学校経営を後押しするために学校長裁量の予算を拡充し、学校の創意工夫、自主的な取組に関して各学校が企画立案を行い、教育委員会が評価・査定を行った上で必要な予算を措置する。学校は、児童生徒の実態、保護者の願いや期待、地域の特性などを踏まえ、学力向上や自治力向上に向けた研修会の講師謝金や、地域の郷土芸能指導の講師謝金、地域での体験活動(川遊び体験、稲作体験、廃校活用イベント等)に係る費用、地域課題解決に向けた探究学習での校外学習の移動交通費等、創意工夫のある学校づくりに予算を活用している。</p>
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	夢や目標をもっている児童生徒の割合(小学校)	%	目標	86	87	88	89	90
				実績	77.4	81.4	79.9	83.1	
	(指標の説明) 児童生徒や保護者、地域の実態や願いが加味された各学校の特色ある教育活動の推進によって、故郷に愛着をもち将来への希望をもつ児童の割合が高まると考える								
	2	夢や目標をもっている児童生徒の割合(中学校)	%	目標	72	73	74	75	76
実績				65.9	65.9	67.2	66.3		
(指標の説明) 児童生徒や保護者、地域の実態や願いが加味された各学校の特色ある教育活動の推進によって、故郷に愛着をもち将来への希望をもつ生徒の割合が高まると考える									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	夢や目標をもっている児童生徒の割合(小学校)	%	90%	94%	91%	93%	
	2	夢や目標をもっている児童生徒の割合(中学校)	%	92%	90%	91%	88%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	自主的・自立的な学校経営や、国がめざす「地域とともにある学校づくり」を後押しする事業となっている。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	児童生徒や保護者、地域の実態や願いが加味された各学校の特色ある教育活動の推進に大いに役立っており、大変有効な事業である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	各学校が独自に企画立案した計画書をもとに予算配分をしており、自立と創造の学校づくりに有効に活かされている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	全小・中・義務教育学校で実施し、児童生徒に還元される事業であり、公平性が確保されている。
担当課等の評価コメント	それぞれの小・中・義務教育学校で、児童生徒及び保護者、地域の実態や願いが加味された特色ある教育活動が推進されており、「自立と創造の学校づくり」の上で十分な成果が見られ、なくてはならない事業と言える。委託事業として今後も継続したい。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	市内の小・中・義務教育学校が特色ある学校づくりを目指して取り組む教育活動を支援するものであり、対象校全てが利用していることから必要な事業であることがわかる。各学校の創意工夫、自主的な取組に関する企画立案を教育委員会が評価・査定して予算配分を行っており、適切に事業が行われていると推察する。今後も企画立案や成果に関して、学校間で情報共有をはかりながら事業を実施されることを期待したい。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	各校の計画推進の過程でPDCAサイクルが確保され、それを教育委員会側でチェックする仕組みが設けられており、事業全体でのPDCAサイクルは確保されているものと考えられる。事務事業評価のための情報収集に費用や業務負担が増えることを避ける視点は重要と考えるが、本事業の内容に対して設定された活動指標は評価の指標として違和感がぬぐえない。
--------	---

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	児童生徒の実態や保護者の願いや期待、学校運営協議会で熟議された地域の願いなどを踏まえて、自立して創意工夫のある学校づくりに対する予算配分を適切に行い、特色ある教育活動をより一層推進していく。

自己点検・評価シート

整理№	2	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	魅力と徹底の学力向上推進事業費	所属名	学校教育課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	I	教育の充実を図りその質を高めます！【知を開く】
	政策	(1)	社会を生きぬく力を育む教育の推進
	推進施策	2.	グローバル化や情報化等に対応した授業改善を進め、児童生徒一人ひとりの主体的・対話的で深い学びの実現をめざします。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	全小・中・義務教育学校
意 図 (どのような状態にするために)	学ぶことの楽しさを感じられる魅力ある授業づくりと学習内容の定着を図る取組を徹底し、学力の向上をめざす。
手 段 (どうするのか)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 魅力ある授業づくりのための実践を指定中学校区で行い、全中学校区で共有し授業改善に活かす。 ◎ 全小・中・義務教育学校に基礎学力定着支援員を配置し、学習内容の定着を図る。 ◎ 鳥取市共有学力調査を実施することで学力状況を把握し、授業改善に活かす。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

内容	年度別計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 魅力ある算数・数学等実践推進事業：希望する中学校区で実施 ◎ 基礎学力定着支援事業：全ての学校で実施 ◎ 鳥取市共通学力調査：全ての学校で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 魅力ある算数・数学等実践推進事業：希望する中学校区で実施 ◎ 基礎学力定着支援事業：全ての学校で実施 ◎ 鳥取市共通学力調査：全ての学校で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 魅力ある算数・数学等実践推進事業：希望する中学校区で実施 ◎ 基礎学力定着支援事業：全ての学校で実施 ◎ 鳥取市共通学力調査：全ての中・義務教後で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 魅力ある算数・数学等実践推進事業：希望する中学校区で実施 ◎ 基礎学力定着支援事業：全ての学校で実施 ◎ 鳥取市共通学力調査：全ての学校で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 魅力ある算数・数学等実践推進事業：希望する中学校区で実施 ◎ 基礎学力定着支援事業：全ての学校で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 魅力ある算数・数学等実践推進事業：希望する中学校区で実施 ◎ 基礎学力定着支援事業：全ての学校で実施
	年度別実績	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 3中学校区（湖東、中ノ郷、鹿野） ◎ 支援回数2, 229回 支援員延べ141名 ◎ 小・義前2～3年：国・算、中・義後1～3年：国・数・社・英・理 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 3中学校区（湖東、中ノ郷、鹿野） ◎ 支援回数3, 230回 支援員延べ138名 ◎ 小・義前2～3年：国・算、中・義後1～3年：国・数・社・英・理 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 3中学校区（湖東、国府、福部） ◎ 支援回数2, 228回 支援員延べ156名 ◎ 中・義後1～3年：国・数・社・英・理 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 4中学校区（高草、千代南、湖南、福部） ◎ 支援回数回1, 925回 支援員延べ146名 		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	17,251	17,507	9,951	6,388	0	
	直接経費 A	14,397	14,615	7,121	3,503	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他	14,397	14,615	7,121	3,503	
一般財源							
人件費 B	2,854	2,892	2,830	2,885			
職員数の内訳	正規職員	0.40	0.40	0.40	0.40		
	会計年度任用職員						

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>学ぶことの楽しさを感じられる魅力ある授業づくりと学習内容の定着を図る取組を徹底することで学力向上をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 魅力ある算数・数学等実践推進事業：主体的に学びに向かう児童生徒を育成し学力の向上を図るため、鳥取市学力向上推進プロジェクトチーム作成『算数・数学の「楽しい授業」ポイント』を活用した「魅力ある授業づくり」について研究する。 ◎ 基礎学力定着支援事業：小・中・義務教育学校の児童生徒を対象として、学校と基礎学力定着支援者の連携のもとに、授業後下校までの時間及び長期休業や授業中に定着支援を実施し、基礎学力の定着を図る。 <p>全国学力・学習状況調査で「算数・数学の勉強が好き」と回答する割合は小学校60.2%、中学校55.2%、「算数・数学の授業がよくわかる」と回答する割合は小学校78.3%、中学校70.3%である。中学校の「数学が好き」と回答する割合を除いて、上昇している。</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
活動指標	1	教科(算数・数学)の勉強が好きな児童生徒の割合(小学校)	%	目標	62.4	66	66.2	66.3	66.4	
				実績	65.7	62.4	58.0	60.2		
	(指標の説明)									
	2	教科(算数・数学)の勉強が好きな児童生徒の割合(中学校)	%	目標	52.3	54	54.3	55.3	56.3	
				実績	53.7	55.8	56.3	55.2		
	(指標の説明)									
	3	教科(国語)の勉強が好きな児童生徒の割合(小学校)	%	目標	65.6	66.6	67.6	68.6	69.6	
				実績	57.7	63.2	60.7	62.5		
	(指標の説明)									
	4	教科(国語)の勉強が好きな児童生徒の割合(中学校)	%	目標	65.5	66.5	67.5	68.5	69.5	
				実績	57.2	61.2	68.0	67.4		
	(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	教科(算数・数学)の勉強が好きな児童生徒の割合(小学校)	%	105%	95%	88%	95%	
	2	教科(算数・数学)の勉強が好きな児童生徒の割合(中学校)	%	103%	103%	104%	100%	
	3	教科(国語)の勉強が好きな児童生徒の割合(小学校)	%	88%	95%	90%	91%	
	4	教科(国語)の勉強が好きな児童生徒の割合(中学校)	%	87%	92%	101%	98%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	鳥取県教育委員会の「鳥取県学力向上推進プラン」においても「子どもたち一人一人の関心意欲の向上と確かな学力の定着」が目標に掲げられているため、妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	活動指標については、小学校は前年度よりも低下したものの、中学校は上昇した。基礎学力定着支援事業については、支援を必要としている児童生徒に学習内容の定着を図るために非常に有効である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	魅力ある算数・数学等実践推進事業については、事業費を各中学校区で柔軟に使用できるようにしている。基礎学力定着支援事業についても、実施回数を目安を設定しつつ、各学校の計画に応じ増減して実施できるようにしている。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	魅力ある算数・数学等実践推進事業については、指定中学校区に必要な経費が配分された研究実践であり、その成果を市内の学校と共有することから、やや公平である。基礎学力定着支援事業については、全ての学校で取り組んでいるため公平である。
担当課等の評価コメント	今後も、魅力ある算数・数学等実践推進事業と基礎学力定着支援事業により、魅力ある授業づくりと、学習内容の定着を図る取組の徹底を継続し、児童生徒の学力向上を図りたい。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	本事業は「魅力ある算数・数学等実践推進事業」○「基礎学力定着支援事業」の2つで構成されているが、いずれも成果が現れるまでに一定の期間が必要であると推察する。○については、市内の全ての小中義務教育学校で取り組まれており、ニーズの高さが推察されるが、人手不足等により支援回数、支援員延べ人数ともに減少している。○の事業の継続が児童・生徒の基礎学力向上につながっているか正確に判断するためにも、個々の児童・生徒の評価等を時系列で収集・分析できる体制の整備を期待したい。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	実施事業の見直しが行われた結果、予算規模は大きく縮小しているが、現行の二つの事業に限定されたことで、事業の目的や内容、活動指標などの関係がより明確になったと思われる。活動指標からは伸び悩みの印象も受けるが、毎年異なる児童・生徒を対象としていることを踏まえれば、一定の水準が維持されていることから事業の水準も保たれているものとみることができる。
--------	---

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	「基礎学力定着支援事業」については、各学校の実情に応じた多様な実施形態を踏まえつつ、実施頻度や内容の工夫を図るとともに、全国学力・学習状況調査等の結果を活用しながら、児童生徒の学習状況や意識の変容を経年で把握し、事業の成果と課題を整理していく。また、限られた人員の中でより効果的な支援が行えるよう、学校との連携の在り方についても検討を進める。

自己点検・評価シート

整理№	3	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	GIGAスクール構想事業費	所属名	総合教育センター

1. 基本情報

位基 教 育 本 育 づ 計 振 け 画 興	体系区分	コード	名称
	基本方針	I 教育の充実を図りその質を高めます!【知を開く】	
	政策	(1) 社会を生きぬく力を育む教育の推進	
	推進施策	2. グローバル化や情報化等に対応した授業改善を進め、児童生徒一人ひとりの主体的・対話的で深い学びの実現をめざします。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	市内小・中・義務教育学校の児童生徒
意図 (どのような状態にするために)	鳥取市GIGAスクール構想を推進し、個別最適化された学びと創造性を育む学びの実現を通じて、Society 5.0時代を生き抜く資質・能力を子どもたちに育む教育環境の整備を行う。
手段 (どうするのか)	・学校内の切れ目のないICT環境整備の継続。 ・委託するGIGAスクール運営支援センターの整備により、学校のICT環境整備や利活用計画について専門的な助言や教員のサポート体制の構築を行うことにより継続的なICT活用を推進する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内容	年度別計画	GIGAスクールサポーター業務委託 校内環境整備	GIGAスクール運営支援センター業務委託 GIGAスクール推進委員会 校内環境整備	GIGAスクール運営支援センター業務委託 GIGAスクール推進委員会 校内環境整備	GIGAスクール運営支援センター業務委託 GIGAスクール推進委員会 次期児童生徒一人一台 端末導入準備 校内環境整備	GIGAスクール運営支援センター業務委託 GIGAスクール推進委員会 児童生徒一人一台端末 更新 校内環境整備	
	年度別実績	GIGAスクールサポーター業務委託 電子黒板整備 小学校 9校88台、中学校4校 6台 普通教室アクセスポイント追加設置 小学校 5校 中学校3校	GIGAスクール運営支援センター業務委託 GIGAスクール推進委員会 3回実施 電子黒板整備 小学校 33校106台、中学校4 校9台、義務教育学校 2校6台	GIGAスクール運営支援センター業務委託 GIGAスクール推進委員会 2回実施 電子黒板整備 小学校 8校16台	GIGAスクール運営支援センター業務委託 GIGAスクール推進委員会 2回実施 県端末調達作業部会への参加 校内ネットワークアクセスメントの実施		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	86,081	94,403	101,838	113,972	0	
	直接経費 A	71,811	79,941	87,688	99,546	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	4,107	0	0	5,280	
		地方債	0	0	0		
		その他	0	10,451	30,540	22,332	
一般財源	67,704	69,490	57,148	71,934			
人件費 B	14,270	14,462	14,150	14,426			
職員数の内訳	正規職員	2.00	2.00	2.00	2.00		
	会計年度任用職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	【事業の概要】 これからの社会を生きぬくために必要な情報活用能力を育て、子どもたち一人ひとりのニーズに合わせた教育の実現に向けてICTを効果的に活用した学習を行うため、ICT環境を整備する。
	【事業の成果】 ◎ GIGAスクール推進委員会の開催(2回実施) ◎ 鳥取市GIGAスクール運営支援センター業務委託(全体依頼累計数:2,016件) ◎ 児童生徒1人1台端末及び大型提示装置リース ◎ 湖東中学校校舎長寿命化改良工事に伴うネットワーク整備 ◎ クラウド型セキュリティサービスのライセンスに係る賃借料 ◎ Wi-Fi環境整備整備補助金事業(11件)

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
活動指標	1	教科(算数・数学)の勉強が好きな児童生徒の割合(小学校)	%	目標	62.4	66	66.2	66.3	66.4	
				実績	65.7	62.4	58.0	60.2		
	(指標の説明)									
	2	教科(算数・数学)の勉強が好きな児童生徒の割合(中学校)	%	目標	52.3	54	54.3	55.3	56.3	
				実績	53.7	55.8	56.3	55.2		
	(指標の説明)									
	3	教科(国語)の勉強が好きな児童生徒の割合(小学校)	%	目標	65.6	66.6	67.6	68.6	69.6	
				実績	57.7	63.2	60.7	62.5		
(指標の説明)										
4	教科(国語)の勉強が好きな児童生徒の割合(中学校)	%	目標	65.5	66.5	67.5	68.5	69.5		
			実績	57.2	61.2	68.0	67.4			
(指標の説明)										

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	教科(算数・数学)の勉強が好きな児童生徒の割合(小学校)	%	105%	95%	88%	91%	
	2	教科(算数・数学)の勉強が好きな児童生徒の割合(中学校)	%	103%	103%	104%	100%	
	3	教科(国語)の勉強が好きな児童生徒の割合(小学校)	%	88%	95%	90%	91%	
	4	教科(国語)の勉強が好きな児童生徒の割合(中学校)	%	87%	92%	101%	98%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	子どもたち一人ひとりのニーズに合わせた教育に向けてICTを効果的に活用しており、妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	1人1台端末環境は、児童生徒一人ひとりの学習進度や状況に合わせた指導が容易になるため、病気療養中や不登校など、様々な事情で学校での学習が困難な児童生徒にも、オンラインを通じて柔軟に学びを提供でき、教育の機会を保障する上で極めて有効である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	GIGAスクール運営支援センターを設置することで、ICT環境の整備と運用に係る支援が一元化でき、学校へも、より細やかかつ迅速に対応できるようになった。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	市立小・中・義務教育学校の全児童生徒へ端末を整備している。
担当課等の評価コメント	ICTを効果的に活用することによって、学習の充実を図るとともに、多様な子どもたち一人ひとりのニーズに対応しながら学習を進め、知識や技能の習得につながった。また、1人1台端末を積極的に活用することで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に寄与することができた。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	令和6年度もGIGAスクール運営支援センターへのヘルプデスク設置、電子黒板の整備等を行っている。ヘルプデスクへの相談件数は年間2016件にのぼる。令和7年度末には児童・生徒が利用するiPadの更新を予定しているが、市の財政的負担も発生する予定である。iPadを用いた学習については定着してきていることから、今後必要に応じて、機器の整備、有料教材整備、教材活用方法の共有、端末・ネットワークの保守等にも十分な予算を毎年計上し、教育方法の改善につなげることを期待したい。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	ICT環境の整備から利用方法のサポートまで広範な内容を含む事業である。活動指標はアウトカムに近い観点から設定されているが、反面、個々の事業内容との結びつきがわかりにくくなっている。担当課の評価コメントの記述は事業との関係は明確であるため、この記述の根拠となるような指標に向けて改善されることを期待したい。
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	令和8年度には、「第2期 鳥取市学校教育情報化推進計画」に改定されることから、ICTを効果的に活用し、子ども一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びを一体的に充実させ、次代を担う人材育成を図るため、学校教育の情報化をより一層推進していく。なお、活動指標は施策に沿った指標を設定したい。	

自己点検・評価シート

整理№	6	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	子どもたちの心と自治力育成事業費	所属名	学校教育課

1. 基本情報

位基教育 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	I 教育の充実を図りその質を高めます!【知を開く】	
	政策	(1) 社会を生きぬく力を育む教育の推進	
	推進施策	3. 人との豊かなかかわりにより児童生徒の自己有用感を高めるとともに自治力のある集団づくりを推進します。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	小・中・義務教育学校
意図 (どのような状態にするために)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 道徳教育実践研究事業は、現行学習指導要領を踏まえた効果的かつ多様な指導方法や地域の特色を生かした道徳教育の充実を図る。 ◎ 笑顔あふれる自治力育成研究事業は、学級・学校経営の要となる「自治的能力」や「人間関係形成力」の育成を図り、児童生徒の自己有用感を高める。
手段 (どうするのか)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 道徳教育実践研究事業は、指定校による実践的な研究を行い道徳教育の充実を図るとともに、その成果等について全県的な発信を行う。(令和4年度からは道徳教育研究協議会への参加を通じた学びを各所属校に還元する。) ◎ 笑顔あふれる自治力育成研究事業は、指定中学校区で特別活動の実践研究を行い、市内各学校にその成果を広めていく。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内容	年度別計画	◎ 道徳教育実践研究事業... 指定校にて実践的な研究を実施 ◎ 笑顔あふれる自治力育成研究事業... 指定中学校区にて実践的な研究を実施	◎ 道徳教育実践研究事業... 希望する学校があれば指定校として実践的な研究を実施 ◎ 笑顔あふれる自治力育成研究事業... 指定中学校区にて実践的な研究を実施	◎ 道徳教育研究協議会への参加奨励を実施 ◎ 笑顔あふれる自治力育成研究事業... 指定中学校区にて実践的な研究を実施	◎ 道徳教育研究協議会への参加奨励を実施 ◎ 笑顔あふれる自治力育成研究事業... 指定中学校区にて実践的な研究を実施	◎ 道徳教育研究協議会への参加奨励を実施 ◎ 笑顔あふれる自治力育成研究事業... 指定中学校区にて実践的な研究を実施	
	年度別実績	◎ 道徳教育実践研究事業... 小学校1校、中学校1校で実施 ◎ 笑顔あふれる自治力育成研究事業... 3中学校区で実施	◎ 道徳教育実践研究事業... 希望校なし(道徳教育研究協議会... 中学校1校) ◎ 笑顔あふれる自治力育成研究事業... 3中学校区で実施	◎ 道徳教育研究協議会参加... 13名 ◎ 笑顔あふれる自治力育成研究事業... 3中学校区で実施	◎ 道徳教育研究協議会参加... 8名 ◎ 笑顔あふれる自治力育成研究事業... 3中学校区で実施		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	2,665	2,046	2,015	2,043		
	直接経費 A	1,238	600	600	600		
	直接経費の財源内訳	国・県	637	0	0	0	
		地方債					
		その他					
一般財源	601	600	600	600			
人件費 B	1,427	1,446	1,415	1,443			
職員数の内訳	正規職員	0.20	0.20	0.20	0.20		
	会計年度任用職員						

4. 令和5年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>笑顔あふれる自治力育成研究事業... 外部講師を招聘し特別活動の合意形成を図る話し合い活動(学級会)を含む学級活動(1)の研究や児童会・生徒会活動における自発的・自治的活動の工夫が図られた。</p>
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合(小学校)	%	目標	76	77	78	79	80
				実績	69.7	73.6	71.8	69.5	
	(指標の説明)								
	2	人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合(中学校)	%	目標	76	79	79.3	79.6	80
実績				78.3	78.1	71.5	69.5		
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合(小学校)	%	92%	96%	92%	88%	
	2	人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合(中学校)	%	103%	99%	90%	87%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	目的が明確であり妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	実践中学校区での授業改善が図られている。成果指標（児童生徒アンケート項目）に対する肯定的回答率が上昇または高い割合を維持している学年があり有効である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	実態に合わせて外部講師を招聘したり、教育活動に必要なものが購入されたりし、研究が進められている。笑顔あふれる自治力育成研究事業においては、よりよい合意形成を図らせるための取組が実践され、中学校区で互いに研究会を参観し合ったり、話し合いグッズを揃えたりなど、小小・小中連携も進められた。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	指定中学校区に必要な経費が配分されての研究実践ではあるが、その成果や成果物を市内各学校に発信・共有するということから、やや公平である。
担当課等の評価コメント	笑顔あふれる自治力育成研究事業は、特別活動を重視した自発的・自治的な活動や人間関係形成の取組が推進された。特に学級活動(1)における話し合い活動(学級会)でよりよい合意形成を図る力の育成について実践研究が進められた。中学校区間での連携も図られた。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	◎「道徳教育実践研究事業」と◎「笑顔あふれる自治力育成研究事業」の2事業で構成され、◎は実践中学校区での実践的な研究を行うこととしている。◎については、活動指標としては全学校の平均が用いられているが、この値と比較して実践校における独自アンケートでは肯定的評価の割合が高いことが説明された。これらの点についても、事業の成果として自己点検・評価シートに記載されることを期待したい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	直接的な事業対象者は限られており、事業予算等も小規模であるため短期的に活動指標に変化を及ぼすことは考えにくく、少しずつ授業改善のノウハウなどが普及することで効果が拡がることが想定されている。このため、事業との関連性は低いと考えられるが、活動指標が低下傾向にあることは注意すべきと思われる。
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	課題点だけではなく、成果を上げている点についても明らかにすることで、本事業の有用性についての理解を図りたい。事業実践校での成果を横展開することで活動指標の継続的な伸びを目指したい。

自己点検・評価シート

整理№	8	鳥取市教育振興基本計画
事務事業名	児童生徒支援事業費	所属名 総合教育センター

1. 基本情報

位 基 教 置 本 育 づ 計 振 け 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	1	教育の充実を図りその質を高めます！【知を開く】
	政策	(2)	すべての子どもの学びの保障の充実
	推進施策	2.	不登校やその傾向にある児童生徒の教育を保障し、適切な支援を行います。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	鳥取市立小・中・義務教育学校及びその児童生徒
意 図 (どのような状態にするために)	<ul style="list-style-type: none"> 鳥取市立小・中・義務教育学校の児童生徒を不登校及び不登校傾向の未然防止及び解消 鳥取市立小・中・義務教育学校の児童生徒の不登校、いじめや暴力行為等問題行動の未然防止及び貧困や児童虐待等の不安や悩みの解消
手 段 (どうするのか)	<ul style="list-style-type: none"> 鳥取市不登校対策専門委員会にて不登校対策について総括的に討議し、不登校の未然防止と課題解消を推進する。 不登校及び不登校傾向の児童生徒に対して、学校内では、相談室等での教育相談及び自立支援・学習支援を行う児童生徒相談員の配置、学校外では本市設置のサポートルームやオンラインサポートルームの運営、本市が不登校児童生徒を指導することができる民間施設として認定したフリースクールに通う児童生徒の保護者に対して、利用料の助成により経済的支援を行う。 福祉等の関係諸機関と連携し、児童生徒やその保護者に効果的な支援ができるよう諸条件の環境整備を行う。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

内 容	年度別計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		<ul style="list-style-type: none"> 不登校対策専門委員会の開催アドバイザーの派遣 児童生徒相談員の配置 スクールソーシャルワーカーの配置 フリースクール等への利用料助成 等 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校対策専門委員会の開催アドバイザーの派遣 児童生徒相談員の配置 スクールソーシャルワーカーの配置 フリースクール等への利用料助成 等 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校対策専門委員会の開催アドバイザーの派遣 児童生徒相談員の配置 スクールソーシャルワーカーの配置 フリースクール等への利用料助成 等 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校対策専門委員会の開催アドバイザーの派遣 児童生徒相談員の配置 スクールソーシャルワーカーの配置 フリースクール等への利用料助成 等 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校対策専門委員会の開催アドバイザーの派遣 児童生徒相談員の配置 スクールソーシャルワーカーの配置 フリースクール等への利用料助成 等
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)
	事業費(A+B)	87,494	107,055	113,644	142,524	0
直接経費の財源内訳	直接経費 A	49,026	67,748	73,092	95,636	0
	国・県	4,851	5,837	6,095	8,216	
	地方債	0	0	0	0	
	その他	0	3,018	2,291	3,506	
一般財源	44,175	58,893	64,706	83,914		
人件費 B	38,468	39,307	40,552	46,888		
職員数の内訳	正規職員	1.75	1.75	1.75	1.75	
	会計年度任用職員	11.00	11.00	11.00	11.00	

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>【事業の概要】 不登校やその傾向にある児童生徒一人ひとりの要因や背景、教育的ニーズを把握し、各学校における教育相談体制の充実や当該児童生徒の適切な学びの場の整備等を推進する。</p> <p>【事業の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市不登校対策専門委員会の開催(2回実施)、アドバイザー派遣(4回) 児童生徒相談員の配置14校(小学校3校、中学校11校) スクールソーシャルワーカーの配置(9人配置) フリースクール利用料助成事業補助金(65家庭、73件利用) サポートルームの運営(延べ利用者数:小学生18人、中学生17人) オンラインサポートルーム運営(延べ利用者数:小学生6人、中学生14人)
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	不登校児童生徒が学校以外の地域人材や関係諸機関等の支援につながっている割合	%	目標	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5
				実績	83.5	85.8	79.5	77.9	
	(指標の説明)								
	2		目標						
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	不登校児童生徒が学校以外の地域人材や関係諸機関等の支援につながっている割合	%	100%	103%	95%	93%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	不登校やその傾向にある児童生徒は全国同様増加しており、不登校の要因や背景等に合わせた支援ニーズも多岐に渡るため、多様な支援や学びの機会を作ることには必要である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	本市の不登校対策について、不登校対策専門委員からの助言を受けながら、不登校児童生徒の教育機会の確保に努めた。児童生徒相談員による校内での支援や関係機関等と連携し外部機関等につなげたり、ICTを活用した学習機会の整備等、充実を図ったりしている。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	各学校の不登校の出現率や相談室の利用頻度等を考えながら、小・中学校へ児童生徒相談員を配置している。スクールソーシャルワーカーについては、毎月1回の全小・中・義務教育学校を巡回訪問を行い、必要に応じて保護者面談を行ったり、福祉サービスや関係機関等の情報提供等を行ったりしている。また、9名体制にし、統括、統括補佐を置き、複数体制で対応を実施している。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	スクールソーシャルワーカーが担当校区の全小・中・義務教育学校を月に1回巡回訪問を行い、児童生徒やその家庭の支援ニーズについて情報共有しながら必要に応じて関係機関等と連携し、不登校や問題行動等の早期発見、早期支援にあたっている。
担当課等の評価コメント	学級以外の相談室等に児童生徒相談員を配置したり、学校外である市サポートルームやICTを活用したオンラインサポートルームなどの運営、フリースクールの通所費等の保護者への助成を行うなど、教育機会の確保ができる環境づくりを進めている。不登校をはじめ、学校だけでは対応困難なケースについて、スクールソーシャルワーカーを活用しながら、関係機関等との連携を図り、適切な支援へつなぐことができた。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	不登校、問題行動、児童虐待等多様な問題に悩む児童生徒を対象として支援を行う事業であり、重要性は高い。児童生徒相談員、スクールソーシャルワーカー（SSW）等の専門性の高い業務に対するニーズが高まっており、十分な報酬を手当てしながら必要な人材の確保・育成に取り組むことを期待したい。また、フリースクール等の利用料助成、オンラインサポートルーム事業も行っており、教育機会の確保に務めている点は評価できる。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	本市は不登校等の学校不適合の状況にある児童生徒が他地域に比べて多い傾向にあり、従来より大きな課題であった。多層的な支援体制を整備したことで、状況の悪化を抑制する力となっている。活動指標は低下傾向であるが、支援対象となった児童生徒が学校等に復帰する例も多くなっているとのことで、改善に向けた動きも進んでいる。
--------	---

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止	<input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	教職員による日々の行動観察や学校生活アンケート、一人一台端末を利用した心身の健康観察等を活用して一人ひとりのニーズを的確に捉え、校内外の居場所や学習機会を確保するとともに、関係機関との緊密な連携を図り児童生徒や保護者に寄り添いながら社会的自立への見通しをもった支援を推進していく必要がある。			

自己点検・評価シート

整理№	20	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	大規模改造事業（小学校）	所属名	教育総務課

1. 基本情報

位 基 教 置 本 育 づ 計 振 け 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	I 教育の充実を図りその質を高めます！【知を開く】	
	政策	(3) 充実した教育環境の推進	
	推進施策	1. 子どもが生き生きと学び活動できる環境を整えるため、老朽化した施設の改修や、トイレの洋式化などの学校施設の充実を図ります。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	小学校施設
意 図 (どのような状態にするために)	安全・安心な施設環境と充実した教育環境を推進する。
手 段 (どうするのか)	校舎などの大規模改造等を行う。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	◎ 江山学園普通教室棟長寿命化改良工事 ◎ 江山学園特別教室棟増築工事 ◎ 福部未来学園駐車場整備工事	◎ 江山学園特別教室棟増築工事 ◎ 福部未来学園グラウンド等整備工事	◎ 江山学園外構工事	◎ 米里小学校トイレ改修工事	◎ 校舎等の老朽化対策やトイレの洋式化などの工事を実施（R7当初予算では「大規模改造事業（小学校）」に関する該当予算なし）	
	年度別実績	◎ 江山学園普通教室棟長寿命化改良工事 ◎ 江山学園特別教室棟増築工事 ◎ 福部未来学園駐車場整備工事	◎ 江山学園特別教室棟増築工事 ◎ 福部未来学園グラウンド等整備工事	◎ 江山学園外構工事	◎ 米里小学校トイレ改修工事		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	576,737	499,321	114,504	123,865	0	
	直接経費 A	569,602	492,090	107,429	116,652	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	139,057	141,288	0	23,566	
		地方債	414,400	286,200	80,100	93,000	
		その他	0	0	0	0	
一般財源	16,145	64,602	27,329	86			
人件費 B	7,135	7,231	7,075	7,213			
職 員 数 の 内 訳	正規職員	1.00	1.00	1.00	1.00		
	会計年度任用職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事 務 事 業 の 実 施 概 要	【事業の概要】	昭和55年・63年に建築された米里小学校の校舎は老朽化が進んでおり、経年により、損耗、機能低下した設備等の大規模改修を行うことで、社会ニーズに対応した安全・安心な教育環境を確保する。
	【事業の成果】	米里小学校トイレ改修 → 配管等の更新、床の乾式化、多目的トイレの設置(1箇所)、洋式トイレの設置(100%)、暖房便座の設置(一部は温水洗浄便座)、照明LED化、人感センサーの設置、手洗い場・収納棚の更新など
	【参考(令和6年度に他事務事業で実施した主な工事等)】	・湖東中学校長寿命化改良工事 (R7.3月Ⅱ期工事完成→事業完了) ・中学校特別教室空調設備設置工事 (高草・桜ヶ丘・中ノ郷・河原・千代南中の5校工事完了)

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	各年度事業進捗	%	目標	100	100	100	100	100
				実績	100	100	100	100	
	(指標の説明) 予定工事の実施(施工)率								
	2	学校施設のトイレ(大便器)洋式化率	校	目標		28	33	38	43
実績					28	38	39		
(指標の説明) 大便器のうち洋式化割合が5割以上の学校数(小学校・義務教育学校)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	各年度事業進捗	%	100%	100%	100%	100%	
	2	学校施設のトイレ(大便器)洋式化率	校		100%	115%	103%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	施設の安全性や安心して利用できる教育環境を確保するための必要な整備を実施している。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	施設の安全性や安心して利用できる教育環境を確保するための必要な整備を実施している。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	○ 国の交付金や起債など有利な財源の確保を図っている。 ○ 国の経済対策における令和5年度国1次補正の活用により本市財政負担の軽減を図っている。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	年次的な整備計画について検討するとともに、必要な整備を実施している。
担当課等の評価コメント	校区再編の動向を注視しつつ、効率的かつ効果的な学校施設整備となるよう、長寿命化改良を軸とした改修計画の検討を進めます。長寿命化改良では、建物の耐久性を高めて健全な状態に保つため、構造体の劣化対策やライフライン更新のほか、予防的かつ社会的要請に応じた改修工事などを適切なタイミングで実施し、安全・安心な施設環境と充実した教育環境の確保に向けた必要な整備を行うこととします。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	鳥取市の小中義務教育学校の校舎等は、建設後40年以上経過しているものが47%あり、子供達に安全・安心な施設環境と充実した教育環境を提供するために、老朽化した施設等の大規模改造等を行う事業であり、令和6年度は小学校トイレ改修工事を行っている。事業計画に基づき、適切に事業の実施が行われていると判断した。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	校区再編などの動向を踏まえつつ、中長期的な計画に基づき事業が進められている。計画された事業の実施が困難になるような外部的な情勢の変化が生じなければ活動指標等は100%水準に保たれるものと思われる。
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	学校施設は、校舎、屋内運動場、プール、その他付帯施設・設備から現在の教育環境を構築していますが、全体的な施設の老朽化が今後ますます進むことが予想される中で、老朽化だけではなく、本市の財政状況や学校の再配置(校区再編)などを勘案した上で「何を」「どの施設から」など対応の優先度を整理していく必要があります。また、今後、気高地域新設統合小学校や学校給食センターなどの大型建設事業の着手や屋内運動場空調設備整備(断熱工事込)の新規事業などを控えている中で、大規模改造事業に割ける予算も限られることが想定されますが、校舎等の長寿命化改良も猶予のない状態です。教育委員会全体として、事業規模の把握や整備スケジュールを共有し、改めて大規模改造事業を組み立て、実行性を高めていく必要があります。	

自己点検・評価シート

整理№	24	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	鳥取市立学校校区再編推進事業費	所属名	教育総務課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	1 教育の充実を図りその質を高めます！ 【知を開く】	
	政策	(3) 充実した教育環境の推進	
	推進施策	2. 学校と地域が一体となり、地域の実情に応じた活力ある学校づくりをめざすため、学校のあり方を検討する組織づくりを支援します。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	市民全般
意 図 (どのような状態 にするために)	学校と地域が一体となり、地域の実情に応じた活力ある学校づくりを目指す。
手 段 (どうするのか)	地域で学校のあり方について議論する、「学校のあり方を考える検討組織」の立ち上げを支援する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	鳥取市立学校適正規模・適正配置基本方針の周知	「学校のあり方を考える検討組織」づくりの推進や「ブロック別協議会」の開催	「学校のあり方を考える検討組織」づくりの推進や「ブロック別協議会」の開催	「学校のあり方を考える検討組織」づくりの推進や「ブロック別協議会」の開催	「学校のあり方を考える検討組織」づくりの推進や「ブロック別協議会」の開催	
	年度別実績	保護者・地域向け説明会計13回	○ 保護者・地域向け説明会計31回 ○ 検討組織設置数5組織	○ 保護者・地域向け説明会計42回 ○ 検討組織設置数5組織 ○ 気高地域新設統合小学校学校候補地の測量、地質調査、予備設計	○ 保護者・地域向け説明会計17回 ○ 検討組織設置数0組織 ○ 南ブロック協議会の開催		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	15,118	15,430	37,766	15,244	0	
	直接経費 A	848	968	23,616	818	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	0	0			
		地方債	0	0			
		その他	0	0			
一般財源	848	968	23,616	818			
人件費 B	14,270	14,462	14,150	14,426			
職員数の内訳	正規職員	2.00	2.00	2.00	2.00		
	会計年度任用職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>鳥取市立学校適正規模・適正配置基本方針に基づき、地域協議を前提とすることを基本として、おおむね20年後の学校の適正規模・適正配置について検討を進める。令和5年度は前年度に引き続き鳥取市立学校適正規模・適正配置基本方針について各小中学校区PTA、各種団体等に説明を行い、学校のあり方を考える検討組織の立ち上げに向けた働きかけを行った。</p> <p>また、南ブロック内の小学校区の検討組織より統合等を希望する要望書が提出されたことから、南ブロック協議会を開催し、今後の方向性についてブロック内の学校区で意見交換等を行った。</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	地域で学校のあり方を考える検討組織の設置数	校区	目標	6	20	33	43	43
				実績	6	11	16	16	
		(指標の説明) ブロックごとに優先順位をつけて検討組織の立上げをうながす(市内5ブロック)							
活動指標	2			目標					
				実績					
		(指標の説明)							

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	地域で学校のあり方を考える検討組織の設置数	校区	100%	55%	48%	37%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	鳥取市立学校適正規模・適正配置基本方針において将来的に児童生徒数が減少しても、子どもたちにとってより良い教育環境を確保するために全ての校区において、学校のあり方を考える検討組織の立ち上げることとしており、目的は妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	すでに学校のあり方を考える検討組織の立ち上がっている校区での取り組みを参考に、他校区においても検討組織設立に向けた検討が進みつつあり、有効である。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	P T A連合会及び自治会連合会当にも協力いただきながら各校区に組織立上げに向けた働きかけを行っているが、緊急度の低い学校など立上げに結び付いていない学校区もあり、より効率的な活動方法を検討する必要がある。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	市内全小学校区及び義務教育学校区を対象にしており、公平である。
担当課等の評価コメント	令和6年度は鳥取市立学校適正規模・適正配置基本方針について各小中学校区PTA、各種団体等に説明を行うとともに、組織立上げに向けた支援を行ったが、新たな検討組織の立上げまで至らなかった。ただし、既存の検討組織の議論の進行を受け、南ブロック協議会を実施した。令和7年度以降も引き続き、学校のあり方を考える検討組織の立上げの支援等を行う。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	令和3年3月に公表された「鳥取市学校適正規模・適正配置基本方針」に基づき、概ね20年後の学校の適正規模・適正配置について地域で話し合いを進めるための環境整備を行うため、全ての小学校区において学校のあり方を考える検討組織を立ち上げることとなっている。令和6年度は保護者・地域向け説明会が17回開催されたが、新たな検討組織の設置はなかった。一方、複数の中学校区を対象としたブロック協議会は新たに一カ所で開催されることとなった。検討組織の設置数は目標とする43組織の37%である16組織にとどまっており、組織の設置は低調であることから、各地域で開催する説明会や関係諸団体の会合等での検討組織の必要性周知だけでは、目標の達成は困難であると推察される。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	児童生徒数の減少に伴う校区再編を行政が押し付けるのではなく各校区単位に我がこととして検討を促す進め方は高く評価したい。一方で、校区単位で地域と学校が連携する組織は複数の事業で見られるため、協議体がやや乱立しているのではないかとこの思いも拭えない。
--------	---

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	事業計画に基づき事業を実施する。小規模化が進み複式学級の発生が予測される学校等、優先度の高い学校を中心に、検討組織の立上げに向けて積極的に働きかけを行う。また、ブロック別協議会を開催している南ブロックに続き、他ブロックでも協議会を開催し、ブロック内の学校の将来像について合意形成を図る。	

自己点検・評価シート

整理№	25	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	学校働き方改革推進事業費	所属名	学校教育課

1. 基本情報

位基 教 育 本 づ 計 振 け 画 興	体系区分	コード	名称
	基本方針	I 教育の充実を図りその質を高めます!【知を開く】	
	政策	(3) 充実した教育環境の推進	
	推進施策	3. ICTの活用や学校サポート体制の構築を図り、学校業務の効率化や共同化など学校業務の改善によって教職員の多忙化を解消します。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	全小・中・義務教育学校
意図 (どのような状態にするために)	学校や教員の膨大な業務範囲を整理し、限られた時間の中で教師の専門性を活かしつつ、授業改善のための時間や児童生徒に接する時間を確保できる勤務環境を整備する。
手段 (どうするのか)	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校業務支援システムの運用 ② スクールサポートスタッフの配置 ③ デジタル採点システムの導入

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内容	年度別計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校業務支援システムの運用 ② スクールサポートスタッフの配置 (5校) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校業務支援システムの運用 ② スクールサポートスタッフの配置 (5校) ③ デジタル採点システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校業務支援システムの運用 ② スクールサポートスタッフの配置 ③ デジタル採点システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校業務支援システムの運用 ② スクールサポートスタッフの配置 ③ デジタル採点システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校業務支援システムの運用 ② スクールサポートスタッフの配置 ③ デジタル採点システムの導入 	
	年度別実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校業務支援システムの運用 ② スクールサポートスタッフの配置 (5校) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校業務支援システムの運用 ② スクールサポートスタッフの配置 (5校) ③ デジタル採点システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校業務支援システムの運用 ② スクールサポートスタッフの配置 (5校) ③ デジタル採点システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校業務支援システムの運用 ② スクールサポートスタッフの配置 (5校) ③ デジタル採点システムの導入 		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	18,808	26,700	28,183	28,617	0	
	直接経費 A	16,667	24,531	26,060	26,453	0	
	直接経費の財源内訳	国・県		1,869			
		地方債					
		その他					
	一般財源	16,667	22,662	26,060	26,453		
人件費 B	2,141	2,169	2,123	2,164			
職員数の内訳	正規職員	0.30	0.30	0.30	0.30		
	会計年度任用職員						

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ① 全県で統一された学校業務支援システムを導入することで、様式の標準化や情報共有の効率化を図る。 ② 授業の準備など教員が行う業務のうち専門的な知識や技術を要しない業務をスクールサポートスタッフが担うことで、教員が児童生徒への指導や教材研究等に一層注力できるよう環境を整備する。 ③ 中学校、義務教育学校後期課程にデジタル採点システムを導入することで、採点から集計までの業務を支援し、授業改善のための時間や児童生徒に接する時間を確保できる勤務環境を整備する。
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	1人あたりの時間外勤務における月平均時間 (指標の説明)	時間	目標	48	36	34	32	30
				実績	37.1	37.8	33.1	32.3	
	2	(指標の説明)		目標					
			実績						

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	1人あたりの時間外勤務における月平均時間	時間	129%	95%	102%	99%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	教員が子どもたちと向き合う時間や教員同士が相互に授業展開を吟味し合う時間を増加させ、教育の質の向上と教員の業務改善を図る必要がある。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	教員の時間外勤務の削減に必要な事業であり、目標とする数値に達している。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	学校業務支援システムやスクールサポートスタッフ配置により成果が上がっている。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	学校業務支援システムは全校導入されているが、スクールサポートスタッフは配置校のみとなっている。
担当課等の評価コメント	各学校で業務改善を進めており成果が上がっているものの、指標には若干届かなかった。今度も、令和6年3月に一部改訂した「学校における働き方改革推進のための基本方針」に基づき、学校と情報を共有しながら取組を推進していきたい。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	本事業は校務支援システム導入とスクールサポートスタッフの配置、中学校へのデジタル採点システムの導入により、教職員の負担軽減を目指すものである。校務支援システムは、平成30年度に導入されていることから、同システム利用による教職員の負担軽減は一定、達成されていると考えられる。今後も負担軽減を図るためには、スクールサポートスタッフの配置増に加えて、適切な教諭配置数の実現、業務フローの見直し等が必要になると思われる。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	教員の長時間業務は人材募集への悪影響も指摘されるほど注目されるようになっており、その削減に向けた取り組みが進んでいることは評価したい。一方で、保護者対応や課外活動など、本来の勤務時間外に対応すべき業務の必要性は下がっておらず、時間外勤務の時間短縮実績はやや下げ止まっているように見える。業務の適切な位置づけと必要な人員やサポートを見極め、今後も着実に推進してほしい。
--------	---

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	令和7年6月の給特法改正等により、教育委員会には業務量管理・健康確保措置実施計画の策定が求められ、令和8年4月からこの計画を実行することとなった。この計画では、今後の5年間で部活動等の活動について、教員の勤務時間内に行うこととするよう示す等、これまでより踏み込んだ内容としている。併せて、スクールサポートスタッフ等の拡充も含め、教育委員会としての取組を検討し、学校働き方改革を推進していきたい。

自己点検・評価シート

整理№	30	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	放課後児童対策事業費	所属名	学校教育課

1. 基本情報

位 基 置 教 本 育 づ 計 振 振 け 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	I 教育の充実を図りその質を高めます!【知を開く】	
	政策	(3) 充実した教育環境の推進	
	推進施策	7. 放課後児童クラブや放課後子ども教室を設置し、放課後の児童の安全・安心な場所を確保するとともに、家庭や地域等と連携し児童の健全な育成を図ります。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	小学校児童・保護者
意 図 (どのような状態 にするために)	昼間保護者が就労等のため家にいない小学校児童を授業の終了後に預かり、適切な遊び及び生活の場を確保することで、児童の健全育成を図る。
手 段 (どうするのか)	小学校児童を学校施設内や専用施設等で預かり、遊びや集団生活の場を提供する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	◎ 放課後児童クラブの設置・運営 ◎ 保護者会等に運営委託	◎ 放課後児童クラブの設置・運営 ◎ 保護者会等に運営委託	◎ 放課後児童クラブの設置・運営 ◎ 保護者会等に運営委託	◎ 放課後児童クラブの設置・運営 ◎ 保護者会等に運営委託	◎ 放課後児童クラブの設置・運営 ◎ 保護者会等に運営委託	
	年度別実績	◎ 放課後児童クラブの設置74クラブ (うち新規3クラブ) ◎ 保護者会等に委託し運営(保護者会委託32クラブ、NPO法人委託42クラブ)	◎ 放課後児童クラブの設置76クラブ (うち新規2クラブ) ◎ 保護者会等に委託し運営(保護者会委託30クラブ、NPO法人委託46クラブ)	◎ 放課後児童クラブの設置76クラブ ◎ 保護者会等に委託し運営(保護者会委託29クラブ、NPO法人等委託47クラブ)	◎ 放課後児童クラブの設置78クラブ ◎ 保護者会等に委託し運営(保護者会委託29クラブ、NPO法人等委託49クラブ)		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	635,647	615,497	655,255	755,722	0	
	直接経費 A	621,377	601,035	641,105	741,296	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	379,556	364,188	427,492	490,739	
		地方債	500	800	0	1,500	
		その他	10,006	20,206	13,006	20,377	
		一般財源	231,315	215,841	200,607	228,680	
人件費 B	14,270	14,462	14,150	14,426			
職員数の内 訳	正規職員	2.00	2.00	2.00	2.00		
	会計年度任用職員						

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に、学校施設等を活用し遊び及び生活の支援を行い、児童の心身ともに健全な育成を図る。
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	有資格者である放課後児童支援員の割合 (指標の説明)	%	目標	53	54	55	56	57
				実績	48	52	52	57	
活動指標	2	(指標の説明)		目標					
				実績					

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	有資格者である放課後児童支援員の割合	%	91%	96%	95%	102%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	放課後児童クラブのニーズは年々高まっており、妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	放課後児童クラブを78クラブを開設し、昼間保護者が就労等のため家にいない小学校児童の適切な遊び及び生活の場を確保し、児童の健全育成につながっている。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	報酬や管理費等の経費を委託料として受託者に支払うほか、受託者が保護者負担金を徴収することで、放課後児童クラブの運営を行っている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	児童クラブ設置の必要がある校区にはすべて開設をしており、入所児童数が増加する等必要に応じて複数開設を行っている。また、委託料の支払いは児童クラブの規模（児童数）に応じて算定しており、公平性は保たれている。
担当課等の評価コメント	放課後児童クラブのニーズは高く、役割は大きい。今後も入所希望児童の把握に努め、必要に応じて開設場所の確保を行う必要がある。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	市内全体で利用希望者の増加、対象学年の拡大にともない児童クラブの設置数を増やして対応してきている。保護者のニーズの高い重要な事業であると判断できる。一方で、前年度対比で事業費は1億円程度の増額となっており、財政的にも現状の方式で対症療法的に児童クラブ設置数を年々増やす整備方針は限界に来ていると思われる。利用者負担と市の支援のバランスについての再検討が必要な時期になっていると思われる。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	需要の大きい事業であり、近年の諸物価や人件費上昇の影響から事業費も大きく伸びている。国・県の費用負担も大きいため市の負担のみが大きくなっている訳ではないが、事業規模が年々拡大し続けている点には注意が必要と思われる。活動指標等から、担当課は量的なニーズに対応しつつ、むしろサービスの質の維持・確保に向けての関心が高いものと思われる。
--------	---

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止	<input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	<p>高学年の入所を含め、放課後児童クラブへの入所希望児童数は引き続き増加傾向にあり、既存クラブの分割等が必要となることから、開設場所の確保が急務である。入所児童が増加する既存クラブの分割・拡充に向け、引き続き学校及び保護者会等の運営団体と協議し、必要な施設整備を行っている。</p> <p>また、支援員等の質の向上のため、各種研修を継続して実施していくとともに、県などが実施する研修をクラブに積極的に案内する。放課後児童クラブアドバイザーを配置し、クラブへの助言・支援を行う。加えて、放課後児童クラブ支援員等の確保が課題であることから、潜在的な支援員等の掘り起こし及び処遇改善等の取組を引き続き推進する。</p>			

自己点検・評価シート

整理№	32	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	生涯学習推進事業費	所属名	生涯学習・スポーツ課

1. 基本情報

位基教育 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	Ⅱ 郷土を愛し、豊かな心を育む学びの環境を築きます！【徳を啓く】	
	政策	(1) 生涯にわたり、心豊かに学び育つことができる環境の充実	
	推進施策	1. 市民が自発的に、自由に学ぶことのできる多様な学習機会や情報の提供の充実を図ることで、生涯学習社会の実現をめざします。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	総合支所エリアの住民
意図 (どのような状態にするために)	総合支所エリアにおいて、住民が必要に応じて学習活動に参加できる環境を整備することを目指す。
手段 (どうするのか)	合併前から各町村で行われていた生涯学習事業を引き継ぎ、地域性を生かし、地域に根付いた事業を推進する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

内容	年度別計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
		高齢者向け講座開催 成人向け講座開催 子ども向け講座開催	高齢者向け講座開催 成人向け講座開催 子ども向け講座開催	高齢者向け講座開催 成人向け講座開催 子ども向け講座開催	高齢者向け講座開催 成人向け講座開催 子ども向け講座開催	高齢者向け講座開催 成人向け講座開催 子ども向け講座開催	高齢者向け講座開催 成人向け講座開催 子ども向け講座開催
年度別実績	講座開設数261講座 内高齢者向 28講座 内子ども向 75講座	講座開設数285講座 内高齢者向 34講座 内子ども向 84講座	講座開設数 226講座 内高齢者向 29講座 内子ども向 78講座	講座開設数 208講座 内高齢者向 37講座 内子ども向 84講座			
	延参加人数5,501人 内高齢者向 415人 内子ども向2,209人	延参加人数9,577人 内高齢者向 548人 内子ども向3,262人	延参加人数11,300人 内高齢者向 638人 内子ども向 3,407人	延参加人数11,445人 内高齢者向 637人 内子ども向 4,059人			
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	31,465	32,323	33,211	37,873	0	
	直接経費 A	1,153	1,369	1,403	1,412	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	1,153	1,369	1,403	1,412			
人件費 B	30,312	30,954	31,808	36,461			
職員数の内訳	正規職員	1.60	1.60	1.60	1.60		
	会計年度任用職員	8.00	8.00	8.00	8.00		

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>高齢者向け講座 37講座 耕心大学、青谷町高齢者教室、みすみ大学、河原町みたき大学、万葉大学</p> <p>子ども向け講座 81講座 チャレンジスクール(ABC教室)、ジュニア川柳事業、おはなし会 など</p> <p>成人向け講座、女性対象講座、子育て支援、図書行事、作品展、伝統行事の継承 など</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	生涯学習事業の開催	件	目標	300	300	300	300	300
		(指標の説明)		実績	261	285	226	208	
	2		目標						
		(指標の説明)	実績						

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	生涯学習事業の開催	件	87%	95%	75%	69%	
	2							

7. 評価【C】総合支所エリアにおいて、住民が必要に応じて学習活動に参加できる環境を整備することを目指す。

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	地域のニーズに合わせ、地域にあった生涯学習事業が開催されており、妥当と考える。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	各分室で実施される生涯学習事業が、生涯学習の機会の充実、社会の要請にこたえる（地域課題解決）学習機会の寄与、世代間交流、地域住民のつながり、地域で子どもを育てる機運の醸成等に繋がる、有効な事業である。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	平成16年の市町村合併以前の町村で実施されていた生涯学習事業を継承して、総合支所単位での生涯学習に取り組むものであり、各地域での生涯学習の機会充実で一定の役割を果たしてきたと考えられる。鳥取市文化センターや、地区公民館における生涯学習事業との整合性を取りながら、今後も重複するような内容の事業を整理し、分室として必要な事業を厳選しながら整理・再編を行う必要がある。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	中心市街地から離れていても、合併前と同様に各地域で生涯学習事業に参加が可能であるが、平成16年の市町村合併後20年以上が経過し、各地域での生涯学習の機会充実で一定の役割を果たしてきたと考えられる。今後議論の余地がある。
担当課等の評価コメント	地域のニーズにあわせた、特色のある生涯学習事業が行われている。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	2004年の広域合併以前の町村で実施されていた生涯学習事業を継承して、総合支所単位での生涯学習に取り組むものであり、各地域での生涯学習の機会充実で一定の役割を果たしてきたと考えられる。ただし、活動指標の達成率は年々低下してきている。各地域での生涯学習の機会を担保しながらの関連する事業の再編を期待したい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	開催されている講座数は減少傾向にあるが、延参加人数は増加している。個々の講座や行事の参加人数の差が大きく、大量の参加者がいる特定の事業による影響が大きい。総合支所エリア単位で市全域での開催事業のバランスを維持することの重要性は理解できるが、合併前の事業を継続することの是非を含め市全体としてのあり方を考えてもよい時期ではないか。
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	本事業の元は、総合支所地域の各地区公民館を管轄する基幹公民館が行っていたもので、基幹公民館廃止後も規模縮小しながら事業を引き継いでいるもの。各地域での生涯学習の機会を担保しながら、各地区公民館や文化センターで行う生涯学習事業との重複する部分を精査していく。	

自己点検・評価シート

整理№	33	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	生涯学習講座推進事業費賦課のまちアカデミー開設費	所属名	生涯学習・スポーツ課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	Ⅱ	郷土を愛し、豊かな心を育む学びの環境を築きます！【徳を啓く】
	政策	(2)	持続可能な地域づくりを支える社会教育の推進
	推進施策	3.	本市のもつ豊かな自然、産業、歴史、芸術、文化財等の地域資源を学びの中で活用し、ふるさとの良さに気づき、ふるさとを愛する心を育みます。

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	麒麟のまち圏域1市6町の住民
意図 (どのような状態にするために)	生涯学習講座「麒麟のまちアカデミー」を開講し、時代の変化に対応し、生活に必要な知識や技能の習得や社会課題の学習、自己の生きがいつくりなど、生涯にわたり取り組める学習環境を提供する。
手段 (どうするのか)	鳥取市文化センターを生涯学習講座や講師等の情報の拠点とし、鳥取市尚徳大学（高齢者向け講座）、技能・教養コース（成人向け講座）、ジュニアチャレンジコース（小学生向け講座）への麒麟のまち圏域全体から参加を受け入れる「麒麟のまちアカデミー」を運営している。 こどもから専門家まで、自由なものづくりの可能性を拡げる市民工房として、「ファブラボとっとり」を運営し、レーザー・デジタル加工機を使った工作教室を実施している。 子どもから大人まで、多様な学習機会や情報の提供を行う。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内容	年度別計画	尚徳大学の開催 市民大学の開催 ファブラボと通りの開催	尚徳大学の開催 市民大学の開催 ファブラボと通りの開催	尚徳大学の開催 技能・教養コースの開催 ジュニアチャレンジコースの開催 ファブラボと通りの開催	尚徳大学の開催 技能・教養コースの開催 ジュニアチャレンジコースの開催 ファブラボと通りの開催	尚徳大学の開催 技能・教養コースの開催 ジュニアチャレンジコースの開催 ファブラボと通りの開催	
	年度別実績	尚徳大学 88回 延参加者数 1,851人 内6町 16人 市民大学 140回 延参加者数 848人 内6町 41人 ファブラボとっとり 10回 延参加者数 27人	尚徳大学 84回 延参加者数 1,499人 内6町 90人 市民大学 200回 延参加者数 1,175人 内6町 50人 ファブラボとっとり 26回 延参加者数 100人	尚徳大学 66回 延参加者数 1,754人 内6町 67人 技能・教養コース 133回 延参加者数 920人 内6町 26人 ジュニアチャレンジコース 12回 延参加者数 50人 ファブラボとっとり 25回 延参加者数 110人	尚徳大学 60回 延参加者数 1,764人 受講者数 340人 内6町 13人 技能・教養コース 107回 延参加者数 1,131人 受講者数 458人 内6町 39人 ジュニアチャレンジコース 9回 延参加者数 43人 ファブラボとっとり 25回 延参加者数 139人		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	15,242	15,731	15,711	15,749	0	
	直接経費 A	14,528	14,646	14,650	14,667	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他	7,751	5,694	14,650	14,667	
一般財源	6,777	8,952					
人件費 B	714	1,085	1,061	1,082			
職員数の内訳	正規職員	0.10	0.15	0.15	0.15		
	会計年度任用職員						

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	鳥取市尚徳大学の開催（高齢者向け講座） ・書道、彫刻、絵画（各10回）・社会、健康、郷土、園芸、いきいき体操（各6回） ※第3回社会講座、第1・4回郷土講座、第3回合同学習を動画収録し鳥取市公式動画チャンネルにて配信 技能・教養コースの開催（成人向け講座） 教養コース（17回） 技能コース ・書道、華道、メンタルヘルストレーニング（各20回） ・骨盤メンテナンス、むくみデトックス、硬筆（各10回） ジュニアチャレンジコースの開催（小学生向け講座） ・ストレッチ教室、落語体験教室、和楽器教室（各3回） ファブラボとっとり（市民工房） 新規会員研修(15回)工作教室（10回）
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	講座受講者の満足度	%	目標	85	87	88	89	90
				実績	83	92	85	88	
	(指標の説明)								
	2			目標					
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	講座受講者の満足度	%	98%	106%	97%	99%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	生活に必要な知識や技能、社会的課題の学習、生きがいつくりに関する生涯学習講座の提供を行った。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	高齢者の年齢にふさわしい社会的能力を高める学習講座を開催した。成人を対象に一般的な教養から専門的な知識の各種講座を開催した。小学生を対象とした学習機会の充実を図る各種講座を開催した。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	本市の生涯学習拠点として、鳥取市文化センターで生涯学習講座を一元的に実施し、効率的な運営が行われ、情報提供の充実が図られた。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	講座の開催案内は、広報誌やホームページ、FM鳥取での放送や公民館等の公共施設への案内チラシの配架を行い、公平に行っている。
担当課等の評価コメント	広報や各町との連携を進め、新温泉町で開催している「おんせん天国・新温泉町 シン・温泉検定」を鳥取市(文化センター)で開催することができた。また講座のネット配信も行ったことで、誰でも講座を見れる環境を提供した。今後も講座内容や受講に関する仕組みをニーズに合ったものに見直しながら新規の申込増を図っていく。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	麒麟のまち圏域の住民を対象とした生涯学習講座の開催を中心とした事業であり、多くの講座が開設されている。ただし、本事業と他の生涯学習関連事業との役割分担については、もう少し明確に示しておく必要がある。なお、事業の年度別計画・実績については、活動指標である受講者の満足度ではなく、具体的な開設(予定)講座数・受講(見込み)人数を記載する形式に変更する方が望ましいと思われる。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	開設される講座数は減少傾向にある反面、延べ参加者数は増加している。講座ごとの参加者数の多寡はあるものの、全般的に講座内容が潜在的な受講者にとって魅力あるものに改善されているものと考えられる。令和4年度を除けば受講者の満足度も緩やかに上昇している。麒麟のまち圏域からの参加者も僅かではあるが増加傾向がみられ、徐々に定着していることが伺われる。
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	今後も麒麟のまち圏域で情報共有しながら、圏域全体の生涯学習の活性化を推進する。講座の内容などニーズに合わせて検討しながら開催していく。オンラインでの配信も継続して行い他の生涯学習関連事業との差別化を図りながら進めていく。事業の年度別計画・実績の変更については今後検討する。

自己点検・評価シート

整理№	35	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	人権教育推進事業費	所属名	総合教育センター

1. 基本情報

位 基 教 置 本 育 づ 計 振 け 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅱ	郷土を愛し、豊かな心を育む学びの環境を築きます！【徳を啓く】
	政策	(1)	生涯にわたり、心豊かに学び育つことができる環境の充実
	推進施策	3.	さまざまな学びや体験を通して、自分を取り巻く人々への感謝や敬愛・命の大切さや善悪の判断など豊かな心を育むとともに、人を大切にす人権教育の充実を図ります。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	小・中・義務教育学校及びその児童生徒
意 図 (どのような状態にするために)	・児童生徒の自治力を育み、いじめを許さない風土をつくること、学校・保護者・地域が一体となっていじめ防止のための取組や啓発を行うことでいじめの未然防止や早期発見・早期対応につなげる。 ・小・中・義務教育学校及びその児童生徒、保護者等のいじめ防止教育や情報モラル教育を含めた人権意識の高揚を図る。
手 段 (どうするのか)	・全小・中・義務教育学校における鳥取市Smileプロジェクトの実施や専門家を派遣した情報モラル教育の推進による人権意識の高揚と啓発を行う。 ・いじめ防止対策推進委員会でいじめ防止に対して統括的に討議し、いじめの未然防止や課題解決に向けた取組を推進する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	◎ Smileプロジェクトの推進 ◎ いじめ防止リーフレットの作成 ◎ いじめ防止対策推進委員会の開催 ◎ 情報モラル研修会を実施					
	年度別実績	◎ Smile月間を実施 ◎ リーフレットを全児童生徒に配布 ◎ いじめ防止対策推進委員会を年2回開催 ◎ 18校で21回実施	◎ Smile月間を実施 ◎ リーフレットを全児童生徒に配布 ◎ いじめ防止対策推進委員会を年2回開催 ◎ 16校で20回実施	◎ Smile月間を実施 ◎ リーフレットを全児童生徒に配布 ◎ いじめ防止対策推進委員会を年2回開催 ◎ 21校で22回実施	◎ Smile月間を実施 ◎ リーフレットを全児童生徒に配布 ◎ いじめ防止対策推進委員会を年2回開催 ◎ 22校で22回実施		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	7,513	7,611	7,460	7,628	0	
	直接経費 A	378	380	385	415	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	
一般財源	378	380	385	415			
人件費 B	7,135	7,231	7,075	7,213			
職員数の内 訳	正規職員	1.00	1.00	1.00	1.00		
	会計年度任用職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>【事業の概要】 いじめの防止教育や人権教育の推進により、人権意識の高揚を図るとともに、いじめ防止教育の効果的な取組について検討したり、専門家を派遣した研修を提供したりすることによって学校現場を支援する。</p> <p>【事業の成果】 いじめ防止・情報モラル教育推進事業 ◎ Smileプロジェクトの推進(いじめ防止リーフレット配布) ◎ いじめ防止対策推進委員会の開催: 2回 ◎ 情報モラル研修会の開催: 22校実施 ◎ 鳥取市人権教育基本方針及び「一人一人の子どもが輝く学校人権教育推進プラン」(第2次改訂)</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	自分にはよいところがあると思う児童(小学校及び義務教育学校前期)の割合	%	目標	80.5	82	83.5	85	86
				実績	75.6	78.5	83.0	81.1	
		(指標の説明)							
活動指標	2	自分にはよいところがあると思う生徒(中学校及び義務教育学校後期)の割合	%	目標	75.5	77	78	79	80
				実績	75.3	76.6	80.4	81.5	
		(指標の説明)							

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	自分にはよいところがあると思う児童(小学校及び義務教育学校前期)の割合	%	94%	96%	99%	95%	
	2	自分にはよいところがあると思う生徒(中学校及び義務教育学校後期)の割合	%	100%	99%	103%	103%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	・目的が明確であり妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	・「鳥取市いじめ防止対策推進委員会」における、委員の助言をもとに「未然防止」と「早期発見・早期対応」を柱に取組を進めている。 ・情報モラル教育は、学校のニーズや現代的な課題にあった研修が行われており有効である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	・Smile月間（いじめ防止強調月間）に合わせていじめ防止リーフレットを全児童生徒に配布し、各学校が活用している。 ・外部講師を積極的に招聘し、学校の実態に合わせた情報モラル教育が進められている。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	・希望する学校には必要な経費が配分され、公平である。
担当課等の評価コメント	いじめの未然防止や早期発見・早期対応のためには、児童生徒の自治力を育み、いじめを許さない風土をつくること、学校・保護者・地域が一体となっていじめ防止のための取組や啓発を行うことが重要である。そのためには、各事業を効果的に関連付け、見直しをしながら進めていきたい。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	限られた予算の中で多様な活動を行っており、活動指標の値からも一定の成果をあげていると判断できる。ただし、活動指標は多様な活動の成果を総合的に把握するために設定されていると推察されるため、個々の活動成果を評価することができない、年度別計画の○～◎についてもそれぞれ活動実績を評価できるような評価指標についても検討されてはどうか。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	啓発事業であり、事業費も講師謝金の部分が大いとのことから、事業の規模や直接的な影響力は限定的と思われる。一方で、活動指標として設定された自己肯定感に関する回答は小中学校ともに徐々に改善しており、この分野の各学校での取り組みと併せて効果を発揮していることが伺われる。
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	いじめの未然防止を中核に据えた自治力のある集団づくりを推進するとともに、情報モラル教育やデジタル・シティズンシップ教育の展開や多様な体験・交流活動の充実と道徳教育を必要としたすべての教育活動を通じて自他を尊重するとともに思いやりの心を持つ豊かな人間性を育てていく必要がある。	

自己点検・評価シート

整理№	43	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	地域学校協働活動推進事業費	所属名	生涯学習・スポーツ課

1. 基本情報

位 基 教 置 本 育 づ 計 振 け 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅱ 郷土を愛し、豊かな心を育む学びの環境を築きます!【徳を啓く】	
	政策	(2) 持続可能な地域づくりを支える社会教育の推進	
	推進施策	2. 未来を創り出す子どもたちの成長のために、学校のみならず、地域住民や保護者等も含め、市民一人ひとりが教育の当事者となり、社会総がかりでの教育の実現を図ります。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	市内小・中・義務教育学校
意 図 (どのような状態にするために)	幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動、推進員を通じて学校、地域が連携することで学校づくりと、地域づくりを進める、未来の創りてとなる子どもたちを育てる。
手 段 (どうするのか)	事業実施地区に地域と学校のつなぎ役として地域学校協働活動推進員を配置し、持続可能な協働活動となるように、地域内の協力者(住民)・団体(保護者・文化団体・PTA・スポーツ団体・社会教育団体等)のつながりである地域学校協働本部を形成し、その役割を十分に機能させる。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	地域学校協働本部設置数 1 0 地区	地域学校協働本部設置数 1 4 地区	地域学校協働本部設置数 1 8 地区	地域学校協働本部設置数 3 0 地区	地域学校協働本部設置数 4 3 地区	
	年度別実績	統括推進員 1名 推進員 8名	統括推進員 2名 推進員 14名	統括推進員 2名 推進員 17名	統括推進員 1名 推進員 22名		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	5,464	6,245	6,657	6,621	0	
	直接経費 A	1,896	2,629	3,119	3,014	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	595	778	860	837	
		地方債					
		その他					
一般財源	1,301	1,851	2,259	2,177			
人件費 B	3,568	3,616	3,538	3,607			
職員数の内 訳	正規職員	0.50	0.50	0.50	0.50		
	会計年度任用職員						

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>事業実施地区に「地域学校協働活動推進員」を配置し、地域全体で子どもたちの成長を支える地域と学校の連携協働体制の整備を推進する。</p> <p>地域学校協働活動推進員は、主に以下の○～◎の役割を担う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校と連携・協働するためのコーディネートをこなす ○ 学校と地域の共有の目標に基づき、地域住民等の参画による事業の企画・実施をおこなう ○ 各地域の人材・支援等ネットワークを持続可能な仕組みに構築 ◎ 学校運営協議会への参画 <p>加えて、各推進員の連絡調整や人材育成、未実施地域の取組推進を担う「統括推進員」を生涯学習・スポーツ課内に置く。</p> <p>R6新規推進員配置校区：面影、米里、津ノ井、宝木、浜坂</p>
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	地域学校協働本部の設置数	校区	目標	10	14	18	30	43
		(指標の説明)		実績	3	5	18	22	
2				目標					
		(指標の説明)		実績					

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	地域学校協働本部の設置数	校区	30%	36%	100%	77%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	地域と学校の連携・協働による子どもたちの教育環境の充実とそれを支えるひとづくり・つながりづくりの充実を図るため妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	地域学校協働活動推進員を配置することにより、地域と学校の連携が図られ、少しずつではあるが地域全体で子どもたちの学びや成長を支える仕組みが進んでいる。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	地域学校協働活動推進員を配置することにより、地域と学校の窓口が一本化されお互いの負担感が軽減されている。また、情報共有がより図られるようになった。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	事業実施地区の選定方法は、市内全小・中・義務教育学校に周知し希望があった地区の状況を聞き取り選定している。
担当課等の評価コメント	地域学校協働活動は、地域と学校が連携・協働をしながら「学校を核とした地域づくり」を目指し今後の地域づくりに重要な事業である。今後も、鳥取市の推進員の設置など適切な推進方法を検討しながら継続をしていく。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	学校と地域のつなぎ役となる地域学校協働活動推進員を配置し、持続可能な協働活動となるように地域学校協働本部の設置に向けて調整を図ろうとするものであり、地区を徐々に増やしながら事業に取り組んでいる。地域学校協働本部の設置数は増加してきているが、令和6年度の設置数は目標の30校区に対して、73%の22校区にとどまっており、目標の達成に向けて一層の推進を期待したい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	学校と地域との連携が求められる分野が広範に及ぶことから、両者を結びつける組織や専門の人材を配置する意義は大きい。個々の分野別に組織を設けるのではなく、包括的に対応できる場を設けることで、地域・学校の独自の取り組みを促進する方向に展開することを期待したい。
--------	---

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	未実施の地区に対し、地域学校協働活動の啓発をするとともに、地域学校協働活動推進員及び地域学校協働本部の設置推進に努めたい。 また、既実施地区においては、形骸化せずより発展的に事業に取り組んでいけるよう伴奏支援をしていきたい。

自己点検・評価シート

整理№	49	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	鳥取城跡保存修理事業	所属名	文化財課

1. 基本情報

位 基 教 置 本 育 づ 計 振 け 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅱ	郷土を愛し、豊かな心を育む学びの環境を築きます！【徳を啓く】
	政策	(3)	歴史と文化が息づくふるさとの創生
	推進施策	1.	文化芸術の振興や文化財への愛護精神の醸成を図り、文化財の保存と活用を進め、次世代への継承に努めます。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	史跡鳥取城跡附太閤ヶ平
意 図 (どのような状態にするために)	1 文化財として良好な状態で保存・活用し、地域資源としての価値を高める。 2 市民の史跡への理解を深め、利活用の推進と全国への情報発信を図る。
手 段 (どうするのか)	1 「保存整備基本計画」に基づき、史跡鳥取城跡の建造物の復元や石垣の修理、環境整備などを行う。 2 「鳥取城フォーラム」や見学会、展覧会等を実施し、情報発信と利活用の推進に努める。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	◎ 大手登城路の復元整備を実施する。 ◎ 文化財の保存修理を実施する。 ◎ 史跡の管理・環境維持を実施する。 ◎ 史跡の調査研究・情報発信を行う。	◎ 大手登城路の復元整備を実施する。 ◎ 文化財の保存修理を実施する。 ◎ 史跡の管理・環境維持を実施する。 ◎ 史跡の調査研究・情報発信を行う。	◎ 大手登城路の復元整備を実施する。 ◎ 文化財の保存修理を実施する。 ◎ 史跡の管理・環境維持を実施する。 ◎ 史跡の調査研究・情報発信を行う。	◎ 大手登城路の復元整備を実施する。 ◎ 文化財の保存修理を実施する。 ◎ 史跡の管理・環境維持を実施する。 ◎ 史跡の調査研究・情報発信を行う。	◎ 大手登城路の復元整備を実施する。 ◎ 文化財の保存修理を実施する。 ◎ 史跡の管理・環境維持を実施する。 ◎ 史跡の調査研究・情報発信を行う。	
	年度別実績	◎ 中ノ御門渡櫓門復元工事に着手した。 ◎ 渡櫓門周辺の石垣の修理を行った。 ◎ 史跡の管理・環境維持を実施した。 ◎ 史跡の調査研究・情報発信を行った。	◎ 中ノ御門渡櫓門復元工事を行った。 ◎ 渡櫓門周辺の石垣の修理を行った。 ◎ 史跡の管理・環境維持を実施した。 ◎ 史跡の調査研究・情報発信を行った。	◎ 中ノ御門渡櫓門復元工事を行った。 ◎ 渡櫓門周辺の石垣の修理を行った。 ◎ 史跡の管理・環境維持を実施した。 ◎ 史跡の調査研究・情報発信を行った。	◎ 中ノ御門渡櫓門復元工事が竣工した。 ◎ 渡櫓門周辺の石垣の修理を行った。 ◎ 史跡の管理・環境維持を実施した。 ◎ 史跡の調査研究・情報発信を行った。		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	366,405	201,918	248,396	317,216	317,216	
	直接経費 A	350,978	186,225	232,661	300,166	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	212,629	108,893	133,340	170,098	
		地方債	116,200	59,300	72,700	100,300	
		その他	9,558	0	2,298	0	
	一般財源	12,591	18,032	24,323	29,768		
人件費 B	15,427	15,693	15,735	17,050			
職員数の内 訳	正規職員	1.50	1.50	1.50	1.50		
	会計年度任用職員	2.00	2.00	2.00	2.00		

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>【事業の概要】 鳥取城跡附太閤ヶ平は、昭和32年に国史跡指定文化財になって以後、年次計画で昭和18年の鳥取大震災等で損傷した石垣の保存修理を実施してきた。現在は、「史跡鳥取城跡保存整備実施計画」（平成18年度策定）に基づき、大手登城路復元整備事業に取り組んでいる。</p> <p>【事業の成果】 市民からも要望の強い鳥取城跡の復元整備・環境整備を推進し、文化財としての保存・活用を図り、史跡の管理・活用を適正に実施した。</p> <p>1. 復元整備事業の実施（中ノ御門渡櫓門復元工事、それに係る関連工事を実施） 2. 維持管理・環境整備事業の実施 3. 調査研究・情報発信事業の実施（パンフレット発行 鳥取城調査研究年報の刊行、鳥取城フォーラムの実施）</p>
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
活動指標	1	大手登城路等石垣修理	%	目標	65	70	75	80	85	
				実績	65	70	75	80		
	(指標の説明) 大手登城路及びその周辺の石垣修理工事の進捗率									
	2	大手登城路復元整備	件	目標	3	1	1	1	1	
実績				3	1	1	1			
(指標の説明) 大手登城路内で整備する復元建物の整備工事数										

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	大手登城路等石垣修理	%	100%	100%	100%	100%	
	2	大手登城路復元整備	%	100%	100%	100%	100%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	1 国指定史跡であり、管理団体として保存活用に努める必要がある。また、中心市街地の都市核の中心を占め、市民の心のよりどころでもあるため。 2 管理団体として鳥取市が積極的に保存・活用に当たる必要があり、また、市民の期待も強い。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	1 鳥取城跡の保存活用の推進は、中心市街地の活性化に資するとともに、史跡内にある久松公園、重要文化財仁風閣等の活用にもつながる。 2 鳥取城フォーラム、現地説明会等は常に一定以上の参加者を得ているが、より広範な市民に情報発信するために、お城祭り等の観光事業等や関係機関との協調を一層図る必要がある。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	1 指定文化財として慎重な取り扱いが必要であり、さらに既存の県有施設との調整等が不可欠である。 2 鳥取市歴史博物館、観光協会等との協力関係により、効率的に事業実施ができています。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	1 無料で利用でき、文化財に関心のある市民だけでなく、市街地に残る豊かな自然環境、また、都市公園として広く利用することができる。 2 市民及び全国的にも城郭遺跡として一定程度の認知を得て活用されている。
担当課等の評価コメント	大手登城路全体のうち、中ノ御門周辺について令和9年度完成に向けて着実に事業を実施していきたい。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	<p>長期的な保存整備計画の下、令和9年度の完成に向けて大手登城路の復元整備に取り組み、国庫補助金交付額の水準に影響されながらも、復元整備自体は毎年、着々とすすめられている。調査研究・情報発信事業として、パンフレットの発行、鳥取城調査研究年報の刊行、鳥取城フォーラムの開催を行っており、令和6年度はフォーラムへの参加者が500名程度となるなど、情報発信にも力を入れている。今後も鳥取城跡の復元整備には長期の時間を要することから、事業に対する市民の理解が深まるよう市民への情報発信等の内容についても事業成果としてのPRを期待したい。</p>
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	<p>復元竣工した中ノ御門渡櫓門が象徴的な存在となり、大手登城路復元整備事業全体の認知や理解が進んでいるように感じられる。なお、活動指標2として「復元建物の整備工事数」が設定されているが、計画されていた建物の復元事業が着手・進行していれば程度に関わらず100%と判定されるので、活動指標として疑問が残る。</p>
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	<p>復元整備が実際に進捗する中で、仁風閣の修理や県立博物館改修計画、城跡周辺の観光・まちづくりが進み、鳥取城の景観なども変わってきている。市民の要望の強い二ノ丸三階櫓を含む二ノ丸の復元整備や文化財石垣の保存修理、久松公園との一元管理等を目指して事業の拡充を図る。</p>

自己点検・評価シート

整理№	51	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	埋蔵文化財調査費	所属名	文化財課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	Ⅱ 郷土を愛し、豊かな心を育む学びの環境を築きます!【徳を啓く】	
	政策	(3) 歴史と文化が息づくふるさとの創生	
	推進施策	2. 伝統文化や歴史遺産に刻まれた先人たちの足跡に触れることで、地域への理解と絆を深め、郷土を愛する豊かな人間性を持った人材を育成します。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	埋蔵文化財
意図 (どのような状態にするために)	適切な状態で保存し、将来に伝える。
手段 (どうするのか)	調査を実施する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内容	年度別計画	埋蔵文化財が確認されている場所で計画されている各種開発事業と調整を図り、文化財保護に努める。	埋蔵文化財が確認されている場所で計画されている各種開発事業と調整を図り、文化財保護に努める。	埋蔵文化財が確認されている場所で計画されている各種開発事業と調整を図り、文化財保護に努める。	埋蔵文化財が確認されている場所で計画されている各種開発事業と調整を図り、文化財保護に努める。	埋蔵文化財が確認されている場所で計画されている各種開発事業と調整を図り、文化財保護に努める。	
	年度別実績	布勢遺跡 64.1㎡ 鳥取城跡 30.0㎡ 宮長竹ヶ鼻遺跡 112.0㎡ 計3件	布勢遺跡 97.3㎡ 上野山古墳群 14.0㎡ 秋里遺跡 26.1㎡ ほか 計13件	青島第1遺跡 6.8㎡ 栗谷所在遺跡 12.9㎡ 布勢遺跡 32.0㎡ 計3件	布勢遺跡 136.0㎡ 横枕前田遺跡 16.0㎡ 浜村所在遺跡 50.0㎡ ほか 計7件		
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	16,700	22,107	20,679	28,526	0	
	直接経費 A	9,565	14,876	13,604	21,313	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	5,084	5,209	6,119	11,188	
		地方債	0		0	0	
		その他	0		0	0	
一般財源	4,481	9,667	7,485	10,125			
人件費 B	7,135	7,231	7,075	7,213			
職員数の内訳	正規職員	1.00	1.00	1.00	1.00		
	会計年度任用職員						

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	(1) 事業の概要 埋蔵文化財が確認されている場所で計画されている各種開発事業と調整を図り、文化財保護に努めた。埋蔵文化財包蔵地等の開発に当たっては、埋蔵文化財調査を行い、遺構や出土遺物等について記録保存し、発掘調査報告書として地域の歴史文化等を後世へ伝えていく。
	(2) 事業の成果 【調査場所】 横枕前田遺跡 16.0㎡ (建物建設) 浜村所在遺跡 50.0㎡ (学校建設) 布勢遺跡 136.0㎡ (個人住宅) ほか 計7件 【開発協議件数】 95件 (埋文に係る協議)

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	発掘調査の件数	件	目標	5	5	5	5	5
				実績	3	13	3	7	5
	(指標の説明)								
	2				目標				
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	発掘調査の件数	%	60%	260%	60%	140%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	埋蔵文化財等を保護するために調査を実施することは妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	埋蔵文化財等を保護するために事前に調査し、遺跡の有無等を確認することは開発事業調整を図るために有効である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	開発との調整等、文化財保護を図るために必要最低限の調査であり、効率的である。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	開発事業と文化財保護の調整を図ることは国民の共有財産である文化財を保護することができ、公平である。
担当課等の評価コメント	開発事業の状況によって必要になる事業であり、社会情勢に大きく左右され、事務局側で目標などを設定するのは困難である。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	開発事業にともない事前協議をふまえて、必要な場所に発掘調査を行うことから、目標設定が難しく、令和6年度は5件の目標に対して7件の実績となっている。開発協議件数も年度による増減があり、令和6年度は95件であった。総じて、適切に事業が実施されていると判断した。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	民間の開発事業の展開によって事業規模が変動するため、柔軟に対応できる体制が整えられている。現在のところ、事前の協議などを経て必要な対応が十分にされているように思われる。
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	社会情勢の変化に伴い、発掘調査の件数は減少傾向にある。今後は発掘調査成果の活用・情報発信、発掘調査事業におけるデジタル化などを進め、様々な状況に対応できるよう、体制整備をすすめていきたい。

自己点検・評価シート

整理№	53	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	旧美敷水源地水道施設管理活用事業費	所属名	文化財課

1. 基本情報

位 基 教 置 本 育 づ 計 振 け 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅱ	郷土を愛し、豊かな心を育む学びの環境を築きます！【徳を啓く】
	政策	(3)	歴史と文化が息づくふるさとの創生
	推進施策	3.	情報発信を促進し、観光客など多くの人が来訪する、歴史と文化の薫りに満ちた活力あるまちづくりを推進します。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	旧美敷水源地水道施設
意 図 (どのような状態にするために)	1 文化財として良好な状態で保存・活用し、地域資源としての価値を高める。 2 市民の史跡への理解を深め、利活用の推進と全国への情報発信を図る。
手 段 (どうするのか)	1 重要文化財の本質的な価値を損なわないように修理を実施する。 2 全国近代化遺産一斉公開に合わせた見学会等を実施し、情報発信と利活用の推進に努める。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	◎ 近代化遺産一斉公開に合わせて一般公開 ◎ 美敷水源地保存会に維持管理及び活用を委託 ◎ 経年劣化に伴う維持補修	◎ 近代化遺産一斉公開に合わせて一般公開 ◎ 美敷水源地保存会に維持管理及び活用を委託 ◎ 経年劣化に伴う維持補修	◎ 近代化遺産一斉公開に合わせて一般公開 ◎ 美敷水源地保存会に維持管理及び活用を委託 ◎ 経年劣化に伴う維持補修	◎ 近代化遺産一斉公開に合わせて一般公開 ◎ 美敷水源地保存会に維持管理及び活用を委託 ◎ 経年劣化に伴う維持補修	◎ 近代化遺産一斉公開に合わせて一般公開 ◎ 美敷水源地保存会に維持管理及び活用を委託 ◎ 経年劣化に伴う維持補修	
	年度別実績	◎ 近代化遺産一斉公開に合わせて一般公開参加者1,028人 ◎ 美敷水源地保存会に維持管理及び活用を委託 年間入館者10,358人	◎ 近代化遺産一斉公開に合わせて一般公開参加者1,255人 ◎ 美敷水源地保存会に維持管理及び活用を委託 年間入館者18,669人	◎ 近代化遺産一斉公開に合わせて一般公開参加者851人 ◎ 美敷水源地保存会に維持管理及び活用を委託 年間入館者12,318人	◎ 近代化遺産一斉公開に合わせて一般公開参加者 1,565人 ◎ 美敷水源地保存会に維持管理及び活用を委託 年間入館者13,600人		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	8,282	9,518	10,163	16,241	0	
	直接経費 A	4,714	5,902	6,625	12,634	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	0	0		0	
		地方債	0	0		6,700	
		その他	23	28	24	22	
一般財源	4,691	5,874	6,601	5,912			
人件費 B	3,568	3,616	3,538	3,607			
職員数の内 訳	正規職員	0.50	0.50	0.50	0.50		
	会計年度任用職員						

4. 令和6年度の事務

事務事業の実施概要	<p>(1) 事業の概要 旧美敷水源地水道施設は、鳥取市の水がめとして大正から昭和にかけて60年にわたって使用された水道施設で、平成19年6月に国の重要文化財に指定された。平成20年度に「旧美敷水源地水道施設保存整備基本計画」、平成25年度に「保存活用計画」を策定した。平成30年度にこれらの計画に基づく整備工事が完成したので、管理・活用を実施し、旧美敷水源地水道施設を市民の誇りとなる遺産として、将来にわたって伝えていく。</p> <p>(2) 事業の成果 重要文化財旧美敷水源地水道施設の維持管理及び公開活用を地元へ委託した。 全国近代化遺産一斉公開にあわせ、11月10日にイベントを開催した。 文化財的な価値がき損ないように保存修理を実施し、見学者の利便性を高めるためにパイオトイレを新たに設置した。</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	重要文化財美敷水源地水道施設の入場者	人	目標	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
				実績	10,358	18,669	12,318	13,600	10,000
		(指標の説明)							
活動指標	2			目標					
				実績					
		(指標の説明)							

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	重要文化財美敷水源地水道施設の入場者	%	104%	187%	123%	136%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	重要文化財である旧美敷水源地水道施設の文化的な価値を維持することや施設を活用して地域の活性化に資することは事業の目的に合致している。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	旧美敷水源地水道施設の維持管理に地域住民が参画することで、地域の誇りや地域の活性化につなげることができることから事業は有効である。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	重要文化財の修理には専門的な知見を持つ業者が必要であることから費用面ではやや効率的ではないが、地域住民が維持管理を行うことは業者に比べ効率的である。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	地域住民が主体となって実施するイベントには多くの市民が訪れている。また県内外から施設の見学者が訪れるなど広く活用されている。
担当課等の評価コメント	旧美敷水源地水道施設は地域住民が積極的に日常の維持管理や公開に携わっており、地域の活性化につながっている。また文化的価値を維持するためには継続的な修理が必要であり、予算の確保が必要である。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	国の重要文化財に指定されている旧美敷水源地水道施設の保存活用計画に基づく整備工事が平成30年度に完了したことを受けて、同施設の管理・活用を図る事を目的とした事業である。活動指標である施設の入場者は、施設整備100周年記念のイベントを実施したため入場者数が多かった令和4年度を除けば、令和3年度以降毎年増加傾向にあり、令和6年度の入場者数も目標値を上回っていることから、適切に管理・活用されていると評価できる。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	文化財の保護と観光資源としての活用を両立させる取り組みが行われているが、活用に偏ることなく保護を前提とした事業としての性格が維持されている。観光資源としては対象者が限られる印象があるが、地域住民や保存会の努力により目標を上回る水準で集客できていることは高く評価したい。
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	地域住民の団体に日常管理や公開イベント等を委託しており、今後も地域活性化につながるような活用を図っていく。一方、指定された建造物は保存修理から5年以上が経過し、建物の適切な保存の観点から維持修繕の時期を迎えている。維持修繕は単市予算での対応となるため、予算の確保が課題である。

自己点検・評価シート

整理№	59	鳥取市教育振興基本計画		
事務事業名	電子図書館管理運営費	所属名	中央図書館	

1. 基本情報

位 基 置 教 本 育 づ 計 振 振 げ 画 興	体系区分	コード	名 称	
	基本方針	Ⅱ 郷土を愛し、豊かな心を育む学びの環境を築きます!【徳を啓く】		
	政策	(4) 親しみのある読書環境づくりの推進		
	推進施策	1. 年齢や障がいの有無などにかかわらず、すべての市民が読書を通して、豊かな心や夢を育み、人づくりや地域づくりを推進します。		

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	電子図書館の整備で、子どもから大人まで、いつでもどこでも学べる環境を作る。
意 図 (どのような状態にするために)	コロナ禍や災害で図書館が休館となった場合でも、電子図書館により図書館サービスを図書館に出向くことなく市民に提供できる体制を整える。 また、音声読み上げ機能を持った電子書籍の整備により、障がいをお持ちの方などの図書館利用の利便性や読書環境を向上させる。
手 段 (どうするのか)	電子図書館システムを導入するとともに、市民に提供するコンテンツを整備する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	電子図書館システム導入事業の精査	電子図書館システムの導入・運用 電子書籍（コンテンツ）の整備	電子図書館システムの運用 電子書籍（コンテンツ）の整備	電子図書館システムの運用 電子書籍（コンテンツ）の整備	電子図書館システムの運用 電子書籍（コンテンツ）の整備	
	年度別実績	電子図書館システム導入事業の精査	電子図書館システムの導入・運用開始 → 令和4年12月1日運用開始 電子書籍（コンテンツ）の整備 → 年度末10,180点（うち青空文庫9,472点）	・電子図書館システムの運用 ・電子書籍（コンテンツ）の整備 → 年度末9,363冊（うち青空文庫8,048点）	・電子図書館システムの運用 ・電子書籍（コンテンツ）の整備 → 年度末10,210冊（うち青空文庫8,950点）		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	0	3,402	4,061	5,717	0	
	直接経費 A	0	3,402	4,061	5,717	0	
	直接経費の財源内訳	国・県		2,041		3,882	
		地方債					
		その他					
一般財源		1,361	4,061	1,295			
人件費 B	0	0	0	0			
職員数の内 訳	正規職員						
	会計年度任用職員						

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	「鳥取市電子図書館」を運用し、365日24時間、いつでも、どこにいても、インターネットを通じて電子書籍の貸出、返却ができるなど、読書環境の充実に図られ、市民の読書活動を支えることができた。また、文字の拡大や色の反転、読み上げ機能のある本を購入するなどし、読書バリアフリーに取り組んだ。
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	登録者数100人あたりの電子書籍貸出冊数	冊	目標		4	5	6	7
		(指標の説明)		実績		4.03	3.11	1.63	
	2			目標					
				実績					
		(指標の説明)							

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	登録者数100人あたりの電子書籍貸出冊数	冊		101%	62%	27%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	仕事や身体障がいなどにより、開館時間内の図書館利用や読書環境に困難をともなう人が存在する。障がいの有無に関わらず、すべての市民が読書活動を通じて、文字・活字文化の恩恵を受けることのできる社会の実現に取り組む使命がある。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	令和2年度、新型コロナウイルス感染症拡大により、図書館も休館に追い込まれた。コロナ禍や災害が発生しても、24時間365日、いつでも、どこにいても、インターネットを通じて、電子書籍の貸出、返却ができる電子図書館の整備は有効である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	インターネットを通じたサービスの提供であるため、市民のあらゆるニーズに対応した電子書籍の提供、GIGAスクールのさらなる活用などに有効である。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	年齢や障がいなどにかかわらず、だれでも、いつでも、どこでも、学べる環境を作ることができる。
担当課等の評価コメント	令和4年12月に電子図書館システムを運用開始、令和6年3月からは図書館情報管理システムと連携し、書籍の検索がしやすくなった。貸出冊数は減少しているが、閲覧件数は6,050回と一定数ある。今後も、電子図書館を核とした鳥取市読書バリアフリー計画の推進を図っていく。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	令和4年12月1日より電子図書館のシステム運用を開始し、令和6年度末の段階で10,210冊の電子書籍を整備している。ただし、利用のためのID、パスワードの配布は図書館会員を優先しており、特別支援学校以外の小中学校にはID・パスワードの配布が行われていない。GIGAスクール構想で導入した情報端末の活用促進につながるような蔵書整備と小中学校児童・生徒へのID・パスワードの配布を期待したい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	従来の紙の書籍と異なり、貸出用の電子書籍は期間を定めた契約のものも多く、貸出可能なコンテンツ数が比較的短期間で変動している。また、著作権フリーで公開されている青空文庫が多くを占めており、最近の出版物の数は限られている。利用が伸び悩んでいる背景にはこうした現状と利用者のコンテンツへの期待との乖離があるのではないかと。
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	<p>今後も読書バリアフリーの観点から、障がいの有無にかかわらず、すべての人が利用しやすい魅力のある電子図書館の充実と周知を図っていく。</p> <p>また、学校における電子図書の利用について、学校教育課と連携し検討を進める。</p>	

自己点検・評価シート

整理№	62	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	地域社会教育活動総合事業費	所属名	中央図書館

1. 基本情報

位 基 教 置 本 育 づ 計 振 け 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅱ	郷土を愛し、豊かな心を育む学びの環境を築きます！【徳を啓く】
	政策	(4)	親しみのある読書環境づくりの推進
	推進施策	3.	学校・家庭・地域と図書館との連携を図りながら、子どもたちの読書活動を推進し、家庭・地域の教育力の向上を図ります。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	子どもから大人までの市民が、本に親しむ機会を提供する。
意 図 (どのような状態にするために)	市民等が本に親しむ機会を得ることにより、幼い時期から読書の習慣を身につけ、自ら考え、行動するために必要な知識や情報を得て、自己実現を図るとともに、生涯にわたって心豊かな暮らしを送るとともに、地域文化の発展に寄与する。
手 段 (どうするのか)	子どもの読書活動を推進するため、ブックスタート事業の協力、おはなし会等の事業を実施するとともに、絵本の読み聞かせ等ボランティア養成講座の実施する。また、各種事業の展開にあたっては、広報媒体を活用して積極的な周知を図る。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	お話し会や各種講座を中心とした生涯学習活動とボランティアなどの社会貢献を促進するとともに、高齢者向けの講座「音読教室」を実施するなど読書活動の推進を図る。こども食堂への支援に取り組む。	・「おはなし会」など子ども対象事業の開催 ・読み聞かせボランティア養成講座の開催 ・ブックスタート事業の協働実施 ・文字・活字文化の日講演会、音読教室、郷土講演会等の開催 ・こども食堂への配本	・「おはなし会」など子ども対象事業の開催 ・読み聞かせボランティア養成講座の開催 ・ブックスタート事業の協働実施 ・文字・活字文化の日講演会、音読教室、郷土講演会等の開催 ・こども食堂への配本	・「おはなし会」など子ども対象事業の開催 ・読み聞かせボランティア養成講座の開催 ・ブックスタート事業の協働実施 ・文字・活字文化の日講演会、音読教室、郷土講演会等の開催 ・こども食堂への配本	・「おはなし会」など子ども対象事業の開催 ・読み聞かせボランティア養成講座の開催 ・ブックスタート事業の協働実施 ・文字・活字文化の日講演会、音読教室、郷土講演会等の開催 ・こども食堂への配本	・「おはなし会」など子ども対象事業の開催 ・読み聞かせボランティア養成講座の開催 ・ブックスタート事業の協働実施 ・文字・活字文化の日講演会、音読教室、郷土講演会等の開催 ・こども食堂への配本
	年度別実績	・「おはなし会」など子ども対象事業の開催 ・読み聞かせボランティア養成講座の開催 ・ブックスタート事業の協働実施 ・文字・活字文化の日講演会、音読教室、郷土講演会等の開催 ・こども食堂への配本	・開館40周年記念事業、文字・活字文化の日講演会、音読教室、郷土講演会等の開催 ・「おはなし会」など子ども対象事業の開催 ・読み聞かせボランティア養成講座の開催 ・ブックスタート事業の協働実施 ・こども食堂への配本	・文字・活字文化の日講演会、音読教室、郷土講演会等の開催 ・「おはなし会」など子ども対象事業の開催 ・読み聞かせボランティア養成講座の開催 ・ブックスタート事業の協働実施 ・こども食堂への配本	・文字・活字文化の日講演会、音読教室、郷土講演会等の開催 ・「おはなし会」など子ども対象事業の開催 ・読み聞かせボランティア養成講座の開催 ・ブックスタート事業の協働実施 ・こども食堂への配本		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	4,125	4,173	4,209	4,249	0	
	直接経費 A	557	557	671	642	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	557	557	671	642			
人件費 B	3,568	3,616	3,538	3,607			
職員数の内 訳	正規職員	0.50	0.50	0.50	0.50		
	会計年度任用職員						

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	読書活動の推進のため、次の事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・各図書館で毎週定期的に「おはなし会」など子ども対象事業を開催 ・絵本の読み聞かせボランティア養成講座を開催 ・ブックスタート事業の保健所、読書ボランティア団体との協働実施 ・文字・活字文化の日講演会、音読教室、郷土講演会等の開催 ・こども食堂への配本
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	登録者一人あたりの図書貸出冊数	冊	目標	10.1	10.2	10.3	10.4	10.5
		実績		10.1	9.7	9.7	9.8		
	(指標の説明)								
	2	お話し会、各種講座等の参加者数	人	目標	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
実績		3,086		4,158	4,280	4,418			
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	登録者一人あたりの図書貸出冊数	冊	100%	95%	94%	94%	
	2	お話し会、各種講座等の参加者数	人	51%	69%	71%	74%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	生涯学習施設として、幼児から高齢者の知識や教養の習得を支援し、特に幼いころからの読書習慣を身につけるよう子どもの読書活動の推進を図り、もって、地域文化の発展に寄与する使命がある。
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 1. 有効である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	事業の実績として、参加者が増加しており、事業をとおして、多くの市民に図書館や本に親しんでもらうことができた。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	現代的な課題も考慮しながら各種講座、講演会などを開催しているとともに、地元の人材（ボランティア）や職員を講師として活用している。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	幼児から高齢者まで幅広い世代を対象とした事業を展開しており、広報についても市報をはじめケーブルテレビ、フェイスブックなども活用し、広く周知するよう取り組んでいる。
担当課等の評価コメント	令和5年度より少しずつではあるが、コロナ禍で減少した各講座の実施数や定員を増やすことでイベントの参加人数が増えたが、目標を達成することはできなかった。今後も引き続き、市民の読書活動への関心が高まるイベントの開催など、利用率向上に取り組む。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	限られた予算下で、子供の読書活動を推進するための多様な活動を継続しており、市民が本に親しむ機会を提供している。お話し会、各種講座等の参加者数はまだ目標値を下回っているが、増加傾向にあることから、今後も活動を継続して行くことを期待したい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	イベント等の参加者数は増加傾向にあるが、事業のアウトカムに近い活動指標である登録者一人当たりの図書貸出冊数は伸び悩んでいる。登録者数に比べてイベント参加者はわずかであるため、もとより直接的な効果が期待されているものではないと考えるが、事業は目標達成の手段であることを踏まえると軽視できない状況である。
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	<p>子どもの読書活動推進のため、「おはなし会」、「ブックスタート事業」など子どもを対象とした事業を今後も継続していく。</p> <p>また、読書環境を手助けする人を養成する「読み聞かせボランティア養成講座」も引き続き春と秋に開催するなど、利用率向上に向けて取り組む。</p>

自己点検・評価シート

整理№	66	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	学校給食運営事業費	所属名	学校保健給食課

1. 基本情報

位 基 置 教 本 育 づ 計 振 振 け 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅲ	未来を創造する健やかな体を育みます！【体を拓く】
	政策	(1)	子どもの健全な食生活と学校保健の推進
	推進施策	1. 児童生徒の心身の成長や健康の保持増進を図るため、学校給食の栄養バランスを工夫するとともに、地場産物の活用や望ましい食習慣を養う取組など食育の推進を図ります。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	市立小中義務教育学校の児童生徒
意 図 (どのような状態 にするために)	安心・安全でおいしい学校給食を継続的かつ安定的に提供する
手 段 (どうするのか)	円滑な学校給食の運営を行う

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	食材等、学校給食に必要な物資の購入 学校徴収金システムの運用（学校給食費の賦課、徴収） 残滓等の処理 学校給食の啓発・食育指導	食材等、学校給食に必要な物資の購入 学校徴収金システムの運用（学校給食費の賦課、徴収） 残滓等の処理 学校給食の啓発・食育指導	食材等、学校給食に必要な物資の購入 学校徴収金システムの運用（学校給食費の賦課、徴収） 残滓等の処理 学校給食の啓発・食育指導	食材等、学校給食に必要な物資の購入 学校徴収金システムの運用（学校給食費の賦課、徴収） 残滓等の処理 学校給食の啓発・食育指導	食材等、学校給食に必要な物資の購入 学校徴収金システムの運用（学校給食費の賦課、徴収） 残滓等の処理 学校給食の啓発・食育指導	
	年度別実績	学校給食賄材料費：851,454千円 学校給食費徴収率：99.22% 市報への学校給食レシピ掲載6回、掲示物「鳥取ふるさと探検」作成10回	学校給食賄材料費：840,440千円 学校給食費徴収率：99.05% 市報への学校給食レシピ掲載6回、掲示物・動画「鳥取ふるさと探検」作成9回	学校給食賄材料費：865,468千円 学校給食費徴収率：98.95% 市報への学校給食レシピ掲載6回、掲示物・動画「鳥取ふるさと探検」「レシピ動画」	学校給食賄材料費：849,204千円 学校給食費徴収率：98.92% 市報への学校給食レシピ掲載6回、掲示物「鳥取ふるさと探検」毎月、動画「レシピ動画」2回		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	888,841	888,227	898,673	886,179	0	
	直接経費 A	881,531	878,088	888,525	875,228	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	0			6,865	
		地方債	0				
		その他	836,577	819,172	823,655	805,616	
一般財源	44,954	58,916	64,870	62,747			
人件費 B	9,969	10,139	10,148	10,951			
職員数の内 訳	正規職員	1.00	1.00	1.00	1.00		
	会計年度任用職員	1.20	1.20	1.20	1.20		

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	学校徴収金システムの運用、食材の調達、食育指導、残滓の処分等、円滑な学校給食の運営を行う。
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	学校給食の完食率	%	目標	95	95	95	95	95
		(指標の説明)		実績	91.5	90.3	90.6	89.7	
2				目標					
		(指標の説明)	実績						

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	学校給食の完食率	%	96%	95%	95%	94%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	完食率を指標とすることで、児童生徒の心身の健全な発達に向けた取り組みの成果の一部を可視化することができる。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	食育の取り組みを通じて、地場産物の活用による郷土愛の醸成や食に対する関心を高めることで、完食率の向上を図ることができる。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	完食率を向上させることで、残滓処理にかかる経費の削減を図ることができる。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	栄養教諭等が、全小中義務教育学校に対して、等しく食育指導を行うことができています。
担当課等の評価コメント	<p>生産者や地元鳥取の食材への理解など、完食率を高めるための取組としての交流事業を企画している。徐々に生産者との交流等が計画できる環境となっており、引き続き映像資料を作成するなど、工夫を重ねながら食育指導に取り組んでいるところ。</p> <p>そのなかで、農林水産部に協力いただき、地元食材(地鶏・鳥取和牛)を給食に提供してもらい、生産者の声を直接児童生徒に届ける工夫を行い(学校への生産者訪問・交流など)地産地消の食育を進めることができた。</p>	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	安心・安全でおいしい学校給食を継続的かつ安定的に提供し、地場産物の活用や望ましい食習慣を養う取組など食育の推進を図ることを目指している。全国的に物価が高騰する中ではあるが、献立の工夫や食材の大量購入等のやりくりを行い給食費の値上げは行っていない点、農林水産部局と連携して国の補助金等を活用しながら地元の和牛、地鶏等の食材を用いたメニューを提供する等、保護者の経済的負担を増やすことなく安定的に学校給食を提供している点は評価できる。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	米価をはじめとした食材の物価高騰が続く中で、一定の国の支援はあったものの給食費を値上げせずに活動指標である完食率を微減にとどめており、現場の献立等の工夫が大きく寄与したと考えられ、高く評価したい。
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	<p>必要な栄養を届けるだけでなく子どもたちにとって魅力的な学校給食とするため、国県の制度や財源を活用するとともに、単価を含めた適正な給食のあり方について検討する。また、地産地消や食育の取組については、生産者との交流給食会を中心に積極的な取組みを展開する。</p>	

自己点検・評価シート

整理№	67	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	備品整備 (学校給食センター)	所属名	学校保健給食課

1. 基本情報

位 基 置 教 本 育 づ 計 振 振 け 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅲ 未来を創造する健やかな体を育みます!【体を拓く】	
	政策	(1) 子どもの健全な食生活と学校保健の推進	
	推進施策	2. 学校給食センターの再整備、設備の充実に取り組むとともに、食物アレルギー対応等の対策を強化し、安全で安心な学校給食を提供します。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	市立小中義務教育学校の児童生徒
意 図 (どのような状態 にするために)	安全・安心でおいしい学校給食を継続的かつ安定的に提供する
手 段 (どうするのか)	各学校給食センターの大型備品を計画的に更新する

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	消毒保管庫(鹿野)、給食配送用コンテナ(鹿野)、冷蔵庫	給食配送用コンテナ(第一)、電動水圧洗米機(鹿野)、金属探知機(8センター)、義務教育学校配膳室空調設備	給食配送用コンテナ(第二)、冷蔵庫、配送車(河原)、真空冷却ボイラー(青谷)	給食配送用コンテナ(湖東)、冷蔵庫、スチームコンベンション(国府)	給食配送用コンテナ(鹿野)、冷蔵庫	
	年度別実績	消毒保管庫(鹿野)、給食配送用コンテナ(鹿野)、球根皮剥機(第二)、蓄冷剤凍結庫(湖東)、電動水圧先米機(青谷)、冷蔵庫(気高)	給食配送用コンテナ(第一)、電動水圧洗米機(鹿野)、金属探知機(8センター)、消毒保管庫(第一)、冷蔵庫(第二、国府)、球根皮剥機(青谷)、回転釜(鹿野)	消毒保管庫(第一)、給食配送用コンテナ(第一、第二、気高)エアコン(気高)、真空冷却ボイラー(青谷)、さいの目切り器(湖東)	回転釜(青谷)、連続炊飯器(青谷)、冷凍庫(第一、第二、青谷)		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	12,961	16,106	11,008	13,712	0	
	直接経費 A	11,534	14,660	9,593	10,827	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債	4,350	4,600	4,700	8,200	
		その他	113	14	14	15	
	一般財源	7,071	10,046	4,879	2,612		
人件費 B	1,427	1,446	1,415	2,885			
職員数の内訳	正規職員	0.20	0.20	0.20	0.40		
	会計年度任用職員						

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	安全・安心な学校給食を継続的かつ安定的に供給するため、学校給食センター及び学校備品を更新する。各学校給食センターの大型調理機器について、年次計画的更新を図る。 また、年次計画外の機器の緊急修繕・器機更新については、各センターで緊急対応を行い、給食の提供に支障を来さないよう努めた。
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	学校給食の安定的かつ継続的な提供 (指標の説明) 学校給食を安定的に提供できていること(大型備品の故障等により、供給できない事態を発生させない)	%	目標	100	100	100	100	100
				実績	100	100	100	100	100
活動指標	2			目標					
				実績					
		(指標の説明)							

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	学校給食の安定的かつ継続的な提供	%	100%	100%	100%	100%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	高額な大型備品については計画的な更新を図ることで突発的な故障を未然に防ぎ、学校給食の安定的な提供と財政負担の平準化を図ることができる。
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 1. 有効である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	立案時に想定していない故障等の対応を優先せざるを得ないことがある。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	修繕可能なものについては修繕しながら使用しており、効率的な更新を進めている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	全小中学校、義務教育学校に対して、等しく安定して学校給食を提供することができる。
担当課等の評価コメント	想定外の急な故障等に優先的に対応するなど、計画外の動きを余儀なくされることがあるが、必要な予算措置を行なうなどにより臨機応変に対応し、給食の提供に大きな支障を出すことなく実施ができています。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	本事業は年次計画で学校給食センター及び学校備品等の機器等の整備を行うものであるが、想定外の故障等の対応も行われている。令和6年度の事務事業実施概要に記載されている機器の更新を行った結果、学校給食の安定的かつ継続的な提供が100%行われた。これらのことから、令和6年度の備品整備も必要なものであったと判断できる。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	給食センター全体の再編を進めながら、計画的に大型の調理機器をはじめとした備品整備を行っている。一方で、実際の必要性に合わせて調達する備品を事前の計画にとらわれずに変更する柔軟な対応もみられる。日々の給食を安定して継続的に提供することを目的とすることを踏まえれば、適切な対応であると評価できる。
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	現在、第一と湖東を統合した新たな学校給食センターの整備を進めており、令和10年度の供用開始を目指している。 第一及び湖東学校給食センターに導入予定の備品に関しては、新たな学校給食センターが完成した場合に廃棄とならず他のセンターに移設ができるよう、必要最低限かつ経済的となるような備品の選定進めていきたい。

自己点検・評価シート

整理№	72	鳥取市教育振興基本計画		
事務事業名	子どものこころづくり支援「夢の教室」事業費	所属名	生涯学習・スポーツ課	

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅲ	未来を創造する健やかな体を育みます！【体を拓く】
	政策	(2)	すべての市民がいつでも親しむことのできるスポーツ活動の振興
	推進施策	1.	乳幼児期から高齢者まで運動やスポーツに親しむ機会の充実に取り組み、体力向上と健康寿命の延伸を図りながら、生涯にわたり豊かな心と健やかな体を育みます。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	小学5年生及び中学2年生
意 図 (どのような状態 にするために)	夢を持つことの大切さ、挫折を乗り越える力、仲間を大切にすることなど児童生徒の社会性を養うため
手 段 (どうするのか)	日本サッカー協会が派遣するサッカーを初め陸上、野球、テニス、ラグビーなど様々な競技のアスリートやアーティストを学校に招き「夢先生」として児童生徒に授業を実施する。授業を通じて児童生徒が感じたことや抱えている問題について夢先生とやり取りし指導を受けることで、児童生徒の夢を応援する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	「夢の教室」実施校数：16校	「夢の教室」実施校数：16校	「夢の教室」実施校数：18校	「夢の教室」実施校数：18校	「夢の教室」実施校数：20校	
	年度別実績	「夢の教室」実施校数：12校	「夢の教室」実施校数：11校	「夢の教室」実施校数：13校	「夢の教室」実施校数：14校		
事 業 費	区 分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	5,128	5,266	7,044	7,521	0	
	直接経費 A	1,560	1,650	3,506	3,914	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他	1,560	1,650	3,506	3,914	
一般財源							
人件費 B	3,568	3,616	3,538	3,607			
職員数の内 訳	正規職員	0.50	0.50	0.50	0.50		
	会計年度任用職員						

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	スポーツや文化、芸術の分野恵トップレベルを極めた著名人等を「夢先生」として迎え、小学5年生・中学2年生を対象に、仲間を思いやることや仲間と協力すること、夢を持つことの大切さなど「夢先生」自らの体験を通して児童生徒たちに伝える「夢の教室」を実施。
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	夢の教室実施校数	校	目標	16	16	18	18	20
				実績	12	11	13	14	
	(指標の説明)								
	2	夢の教室参加者数	クラス	目標	19	19	23	23	25
実績				21	22	20	22		
(指標の説明) 30人/クラス×19クラス(13校×1クラス+3校×2クラス)⇒23クラス(14校×1クラス+4校×2クラス)⇒25クラス(15校×1+5校×2クラス)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	夢の教室実施校数	校	75%	69%	72%	78%	
	2	夢の教室参加者数	クラス	111%	116%	87%	96%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	一流の人材と交流する機会が少ない本市の児童生徒にとっては、アスリートやアーティストと交流する機会を持つことができ、且つ実体験に触れることで見聞を広めることが可能となる。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	普段の学校生活では得ることが出来ない経験を児童生徒が積むことが出来る点について、学校から高い評価を受けている。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	ふるさと納税を用いた青少年育成に関する事業として、児童生徒の健全育成に効果を上げている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	各小・中・義務教育学校に対し、参加希望を募っている。
担当課等の評価コメント	学校や市民から人気のある事業であり継続並びに対象校の拡大を要望されている。本市ではアスリートと触れ合う機会は少ないので、今後とも継続していきたい。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	アスリート（夢先生）との交流を通じて、児童生徒の社会性を伸ばすことを目的とした事業であり、これまで一定の評価をえている。今後は活動指標についても実施校数・実施クラス数から、より実施効果を判断できる指標に改善していくことが必要な時期に来ていると判断した。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	派遣元および講師のスケジュールと実施希望校の都合とが事前の想定ほど確保できなかったためか、実施校数および参加者数の双方とも増加傾向ではあるものの目標を下回っている。派遣元に大きく依存する事業であり、無理のない範囲で着実に成長させてほしい。
--------	---

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	より多くの学校で実施できるよう調整に努め、バランスよく開催し、学校で学ぶことができない貴重な体験をすることで、夢を持つことや仲間と協力することの大切さ等を学ぶ機会を創出する。

自己点検・評価シート

整理№	79	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	鳥取マラソン開催費	所属名	生涯学習・スポーツ課

1. 基本情報

位 基 置 教 本 育 づ 計 振 振 け 興 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅲ	未来を創造する健やかな体を育みます！【体を拓く】
	政策	(2)	すべての市民がいつでも親しむことのできるスポーツ活動の振興
	推進施策	3.	2020年東京オリンピック・パラリンピックの経験を糧にスポーツの大規模競技会や事前キャンプを積極的に誘致して、市内外の交流人口を増加させ、スポーツを通じた活力あるまちづくりを進めます。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	市民
意 図 (どのような状態にするために)	全国規模の大会を通じて本市の魅力を外に広く発信することで、更なるスポーツ交流人口の増加につなげる。
手 段 (どうするのか)	全国各地のランニング愛好者に向けた魅力あるマラソン大会を開催する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	鳥取マラソン参加登録者数 4,600人	鳥取マラソン参加登録者数 4,700人	鳥取マラソン参加登録者数 4,800人	鳥取マラソン参加登録者数 4,900人	鳥取マラソン参加登録者数 5,000人	
	年度別実績	鳥取マラソン参加登録者数 2,094人	鳥取マラソン参加登録者数 1,297人	鳥取マラソン参加登録者数 2,999人	鳥取マラソン参加登録者数 3,369人		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	8,835	8,931	16,375	14,713	0	
	直接経費 A	1,700	1,700	9,300	7,500	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	7,500	7,500	7,500	7,500			
人件費 B	7,135	7,231	7,075	7,213			
職員数の内 訳	正規職員	1.00	1.00	1.00	1.00		
	会計年度任用職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	R6. 3. 17に鳥取マラソンを実施した。
-----------	------------------------

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	鳥取マラソン参加登録者数	人	目標	4,600	4,700	4,800	4,900	5,000
				実績	2,094	1,297	2,999	3,369	
		(指標の説明) 鳥取マラソンへの参加を希望し登録された方の人数							
活動指標	2			目標					
				実績					
		(指標の説明)							

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	鳥取マラソン参加登録者数	人	46%	28%	62%	69%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input type="checkbox"/> 1. 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	鳥取マラソンは、鳥取砂丘をスタートして仁風閣、宇倍神社、バードスタジアムなど変化に富んでおり、景観を楽しめる市街地や観光名所を巡ることにより鳥取をPRできるコースとなっている。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	「鳥取マラソン」というコンテンツを活用し、鳥取市の魅力を発信することで、市内外から多くの参加者を獲得している。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	実行委員会事務局を民間に委託し、民間の機動力とノウハウ、広告宣伝力を生かす運営形態となっている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	参加者の募集については、広報誌やウェブ・ホームページ、新聞掲載等により公平に情報発信を行っている。
担当課等の評価コメント	鳥取マラソンは、鳥取砂丘や鳥取城跡、仁風閣、万葉の里などをはじめとした本市の史跡・名所を巡るほか、千代川や田園地帯などの美しい自然景観も楽しめる『完全ワンウェイコース』となっている。また、コース各所に設けるエイドステーションにおいて、多くのボランティアの協力による給水や鳥取特産のらっきょう、梨などをはじめ、地域住民手づくりの食べ物などの給食も提供しており、全国からも魅力的な大会として好評を博している。 今後も、全国規模の大会を通じて本市の魅力を市外に広く発信することで、更なるスポーツ交流人口の増加につなげたい。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	全国規模の大会を通じて、鳥取市の魅力を市外に発信することで、スポーツ交流人口の更なる増加につなげることを目的とした事業である。全国的にマラソン大会の参加率が低下する中で、鳥取マラソン参加登録者数も目標値の69%の水準であるが、年々少しずつ参加人数は増加傾向にある。今後も本市の魅力発信につながる事業となることを期待したい。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	参加者数は目標を下回るものの着実に増加しており、これまでの取り組みの成果と思われる。集客事業としての側面もあることから、長期的には行政の資源投入を抑え、事業として自立する方向へ成長することを期待したい。
--------	---

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	今後も、他大会との差別化を図るなど、より魅力のある大会とし、全国規模の大会を通じて本市の魅力を市外に広く発信することで、更なるスポーツ交流人口の増加につなげたい。

自己点検・評価シート

整理№	81	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	市民総スポーツ運動費	所属名	生涯学習・スポーツ課

1. 基本情報

位 基 置 教 本 育 づ 計 振 振 け 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅲ	未来を創造する健やかな体を育みます！【体を拓く】
	政策	(2)	すべての市民がいつでも親しむことのできるスポーツ活動の振興
	推進施策	4.	新たに整備する市民体育館やバードスタジアムを核とした、すべての市民がスポーツに参画できる安全で多様なスポーツ環境の確保を図ります。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	市民
意 図 (どのような状態にするために)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 年齢や性別、障がいの有無にかかわらず取り組むことができるニュースポーツ（障がい者スポーツ）の普及促進を図る。 ◎ 学校体育施設を市民に開放することにより、より多くの市民がスポーツ活動を実施できる環境を整える。
手 段 (どうするのか)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ニュースポーツ用具の市民貸出を行う。 ◎ 小学校の体育館及びグラウンドを、市民に開放する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ニュースポーツ用具：23種 ◎ 学校施設開放：46施設 ※ スマート予約システム10月導入 (1)スマート登録団体 700団体 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ニュースポーツ用具：25種 ◎ 学校施設開放：59施設 (1)スマート登録団体 710団体 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ニュースポーツ用具：25種 ◎ 学校施設開放：59校 (1)スマート登録団体 720団体 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ニュースポーツ用具：25種 ◎ 学校施設開放：59校 (1)スマート登録団体 730団体 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ニュースポーツ用具：25種 ◎ 学校施設開放：59校 (1)スマート登録団体 740団体 	
	年度別実績	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ニュースポーツ用具：23種 ◎ 学校施設開放：56施設 (1)スマート登録団体 730団体 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ニュースポーツ用具：25種 ◎ 学校施設開放：59施設 (1)スマート登録団体 731団体 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ニュースポーツ用具：25種 ◎ 学校施設開放：56施設 (1)スマート登録団体 819団体 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ニュースポーツ用具：25種 ◎ 学校施設開放：56施設 (1)スマート登録団体：862団体 		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	18,612	13,424	12,811	13,936	0	
	直接経費 A	13,617	8,362	7,858	8,887	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	13,617	8,362	7,858	8,887			
人件費 B	4,995	5,062	4,953	5,049			
職員数の内訳	正規職員	0.70	0.70	0.70	0.70		
	会計年度任用職員	0.00					

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ニュースポーツ用具 市民に対し、ニュースポーツ用具の無料貸し出しを実施 ・25種目 ◎ 学校施設開放の実施 学校体育施設スマート予約システムによる学校施設開放事業の運用管理 ・実施校数 56校 ・システム登録団体数 862団体
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	ニュースポーツ用具の貸出日数	日	目標	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900
				実績	1,559	2,239	3,357	3,264	
	(指標の説明) ニュースポーツ用具の延べ貸出日数								
	2	学校開放(グラウンド+体育館)	延べ人	目標	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000
実績				442,432	438,624	667,472	830,669		
(指標の説明) 【新規】学校開放事業利用人数									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	ニュースポーツ用具の貸出日数	日	104%	140%	197%	181%	
	2	学校開放(グラウンド+体育館)	延べ人	126%	125%	191%	237%	

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input type="checkbox"/> 1. 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	◎ 健常者と障がい者がともにスポーツに取り組むことができる環境を整備しスポーツを通じたバリアフリー社会の実現に取り組む。 ◎ 学校の体育施設を地域に開放することにより、市民の健康維持に貢献する。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	◎ ニュースポーツに手軽に取り組むことができるよう用具の貸出をおこなう。(指導者として、別事業でスポーツ推進委員を派遣している) ◎ 住民の健康維持・促進に効果がある。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	◎ 市が用具を管理することが広く競技の普及促進を図るうえで効率的である。 ◎ 地域が管理から、web予約システムの導入を行い、市民の利便性の向上を図っている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	◎ 障がいの有無や年齢、性別にとらわれず取り組むニュースポーツを振興し、市民のだれもがスポーツする機会を創出する。 ◎ 全小学校に加え次年度から全中学校の開放も実施することで、本市のスポーツ環境の整備と利便性の向上を図っている。
担当課等の評価コメント	◎ パラリンピックにおいてポッチャ等のニュースポーツへの注目度は上がっている。誰でも楽しむことができるニュースポーツ用具を充実させて、スポーツ振興を図りたい。 ◎ 学校開放を行うことで、市民の健康維持・促進に寄与することができる。令和3年10月からwebで予約を受け付け、これと連動した無人の鍵ボックスで鍵の受渡しを行うスマート予約システムを導入した。学校施設開放事業を多くの市民に利用いただけるよう取り組みを継続する。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	学校体育施設の開放は、令和3年10月のスマート予約システムの導入により延べ利用人数が増加するとともに、これまで利用が少なかった学校施設についても空き状況が可視化されることにより、利用が増加している。令和6年度の活動指標の達成率は237%となっており、システムの導入が事業目的の遂行に有効に機能していると判断できる。一方、利用人数が多くなっていることを踏まえると、公平性を担保した上で、学校施設利用の有料化を検討する時期になっていると考える。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	本事業を構成する「ニュースポーツ用具の貸出」「学校施設開放」の双方とも目標を大きく上回って成長している。ともに大きな成功と評価すべきものだが、特に「学校施設開放」については本来の学校施設としての利用に支障が生じないように、一般の利用と適切に調整されることを期待したい。
--------	--

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止	<input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	スマート予約システムへの団体登録数、ニュースポーツの貸し出し件数は増加しており、スポーツ人口の拡大に結びついている。同一団体による長時間の予約の制限を行うなど、より多くの団体に利用していただきスポーツの振興を図っていく。また、今後、公平性を担保した上で、学校施設利用の有料化について検討したいと考える。			

自己点検・評価シート

整理№	84	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	市民体育館等再整備事業費	所属名	生涯学習・スポーツ課

1. 基本情報

位 基 置 教 本 育 計 振 振 げ 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅲ	未来を創造する健やかな体を育みます！【体を拓く】
	政策	(2)	すべての市民がいつでも親しむことのできるスポーツ活動の振興
	推進施策	4.	新たに整備する市民体育館やパードスタジアムを核とした、すべての市民がスポーツに参画できる安全で多様なスポーツ環境の確保を図ります。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	PFI鳥取市民体育館株式会社
意 図 (どのような状態にするために)	P F I手法を用い民間事業者のノウハウを活用したうえで、本市の市民スポーツの拠点施設となる市民体育館を整備しスポーツによる健康及び健康寿命の増進を図る。
手 段 (どうするのか)	鳥取市民体育館の再整備（建替え）を行うにあたり、事業者内で行われるセルフモニタリングが適正に実施されているかをチェックするとともに市としても適正な建設及び管理が行われるようモニタリングを行う。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
内 容	年度別計画	旧施設の解体及び新施設の建設に対するモニタリング	新施設の建設及び運営・管理に向けた準備協議に対するモニタリング	新施設の開業準備、維持管理運営に対するモニタリング	新施設の維持管理運営に対するモニタリング		
	年度別実績	旧施設の解体及び新施設の建設に対し定例会等を通じてモニタリングを実施した。	新施設の建設及び開業準備に対し定例会等を通じてモニタリングを実施した。	新施設の開業準備、維持管理運営に対し定例会等を通じてモニタリングを実施した。	新施設の維持管理運営に対し定例会等を通じてモニタリングを実施した。		
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	10,165	8,786	341,304	333,556	0	
	直接経費 A	5,170	5,170	337,766	329,949	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他	5,170	5,170	4,000	4,013	
	一般財源	0	0	333,766	325,936		
人件費 B	4,995	3,616	3,538	3,607			
職員数の内 訳	正規職員	0.70	0.50	0.50	0.50		
	会計年度任用職員	0.00	0.00	0.00	0.00		

4. 令和6年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	市民体育館を民間のノウハウを活用したP F I手法により整備する。また、設計・施工・維持管理運営の各段階で、本市の求める要求水準を満たす業務を受注者が行っているか、定期的なモニタリングを実施する。
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活動指標	1	モニタリングの実施回数	回	目標	12	12	12	12	
				実績	14	12	12	12	
		(指標の説明) 事業が適切に実施されることを確認するとともに適宜、指導・是正が行える体制の確保を行う。							
活動指標	2			目標					
				実績					
		(指標の説明)							

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標達成率	1	モニタリングの実施回数	回	117%	100%	100%	100%	
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	市民のスポーツ活動・振興の拠点となる市民体育館を市と事業者が一緒になり、より市民が活用しやすい環境を確保する必要がある。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	事業の実施業況等について適宜、モニタリングを実施することにより事業者との連携を図るとともに必要な指導が生じた場合には迅速な指導・是正を図ることができる。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	PFI手法を用い民間事業者のノウハウを活用することで、効率的な維持管理運営が実現できている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	事業者が提示した提案内容に沿って事業が展開されているのかをモニタリングすることにより監視することができた。
担当課等の評価コメント	新施設の開業準備、維持管理運営にあたり、適宜、的確な協議・相談を行うことができていると考える。また、令和5年6月3日にリニューアルオープンしてより、多くの市民に利用していただき、好評を得ている。総じて、モニタリングを行う事により、事業の進捗管理と必要な協議を進めることができていると評価している。	

8. 学識経験者の所見

【松村一善氏 評価結果】

評価コメント	PFI手法で整備した市民体育館について、令和5年6月のリニューアルオープン後は、毎月実施される定例会議の場で、利用者からの苦情、修繕が必要な不具合等の情報共有を行い対応を検討している。迅速な対応から利用者の評価が高く、年間利用者は建て替え前の10万人に対して、令和6年度は18万人と大幅な利用者の増加につながっている。以上より適切に事業が実施されていると判断した。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	PFI事業であるため市の役割は事業者の監視・監督が中心となる。新しい手法でもあり、利用者および事業者との関係に十分配慮されるとともに、民間事業者の専門的なノウハウを行政が吸収する場としても活用することを期待したい。
--------	---

9. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
今後の課題・方向性	本施設は、市民スポーツの拠点施設として、健康及び健康寿命の増進を目的に多くの市民に利用されている。利用の増加に伴い、要望や苦情も増えてきているが、モニタリングを通して、事業者と課題を共有しつつ、今後とも適切な維持管理運営を行っていきたいと考える。

V 学識経験者の意見（総評）

【松村一善氏】

令和6年度は、第2期鳥取市教育振興基本計画（令和3年度～令和7年度）の4年目にあたる。本年度は、鳥取市教育委員会が実施した87事業のうち24事業が自己点検・評価の対象となった。このうち23事業は令和5年度と同一事業であり、前年度の評価結果を踏まえた改善状況を継続的に確認できた。

自己点検・評価シートは、PDCAサイクルに基づき事業の成果を検証し、改善につなげることを目的としている。シートは、1. 基本情報、2. 事業目的（Plan）、3. 年度別計画・実績（Plan・Do）、4. 当該年度の実施概要（Do）、5. 活動指標（Plan・Do）、6. 活動指標の達成率（Check）、7. 担当部署による評価（Check）、8. 学識経験者の所見、9. 成果を踏まえた今後の方向性（Action）の9項目で構成されている。

PDCAサイクルは、Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善）を繰り返すことで、評価結果を次の計画に反映し、継続的な改善を図る手法である。評価を通じて改善点を明確にし、次年度の計画に具体的に反映させることが、本制度の本質である。

一方、業務管理上の意思決定は、① 環境変化に対応し目標や戦略を定める「戦略的決定」、② 目標達成に必要な資源の配分・運用に関する「管理的決定」、③ 日々の事業を効率的に遂行するための「業務的決定」に区分される。自己点検・評価シートの「7. 評価」は、主として当該年度の管理的・業務的決定に関する評価を行い、その結果を「9. 今後の方向性」において翌年度の改善策として示す構造となっている。

ただし、令和7年度は第2期基本計画の最終年度であるため、当該年度の実績評価にとどまらず、計画期間全体（令和3年度～令和7年度）を通じた総括的評価を行う必要がある。また、第3期基本計画において事業を継続する場合には、第3期における位置づけや改善の方向性を明示することが望ましい。

令和8年度からは次期基本計画のもとで事業が実施される。したがって、次期計画を見据え、自己点検・評価シートの様式や記載方法の見直し、事業成果を適切に把握できる活動指標の再検討など、制度全体の改善が求められる。自己点検・評価が形式的な作業にとどまらず、実質的な事業改善に資する仕組みとして機能するよう、さらなる工夫と改善を期待したい。

【石川真澄氏】

全体的に、賃金や諸物価高騰の影響が顕著になる中で効率性と行政サービスの質確保の両立に尽力している印象が強い。分野によってはある程度の予算増が図られているが、諸費用の上昇が進む中で、サービス水準を維持しながら少しずつ業務の見直しが進んでいるように思われる。今後もそうした取組が進む中で、自己点検・評価が有効なツールとして活用されることを期待したい。

一点、些細な事項ではあるが苦言を述べたい。鳥取市の事務事業評価において評価指標は「活動指標」とされている。政策評価や事業評価の観点からすれば、「何をやったか（アウトプット）」ではなく「目標に対してどのような効果があったか（アウトカム、インパクト）」がより重要な基準である。これまでも各年のコメントにおいてアウトカ

ムの観点から評価すべきことを指摘し、各部局においても可能な限り評価全体でアウトカム視点となるよう取り組まれてきた。しかし、令和6年度の自己点検・評価では、いくつかの事業で「事務事業の実施内容」の中で「事業の成果」との項目が立てられている。確かに、施設整備のような事業では、その完成や整備完了をもって成果とすることもあろう。しかしながら、ソフト事業の場合にイベントなどを何回実施した、といったものを「成果」と位置づけることには疑問が生じる。評価シートの形式としては明らかにアウトプットを記述する欄であるので、「成果」の語があることに過度に反応すべきではないかもしれないが、改めてアウトカム視点からの評価の重要性を強調する立場から、「成果」と「事務事業の実施内容」の差異について注意をお願いしたい。